

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための
教育教材活用マニュアルの作成と精練

研究分担者	島田 裕子	自治医科大学看護学部	准教授
研究分担者	春山 早苗	自治医科大学看護学部	教授
研究分担者	江角 伸吾	自治医科大学看護学部	講師
研究分担者	安齋 由貴子	宮城大学看護学群	教授
研究分担者	牛尾 裕子	山口大学大学院医学系研究科	教授
研究分担者	奥田 博子	国立保健医療科学院健康危機管理研究部	上席主任研究官

研究要旨：

本研究の目的は、本研究班で作成したeラーニング教材と演習教材に基づき、保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材活用マニュアルを作成・精練することを目的とした。

令和2年度の研究成果であるeラーニング教材と演習教材に基づき、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」（以下、「本マニュアル」とする）を作成し、「1. 研究分担者・協力者との意見交換」及び分担研究2～4の検証結果も踏まえて、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」を作成・精練し、その後「2. 本マニュアルに対する保健師の意見・感想の把握」を行った。

研究分担者・研究協力者との意見交換では、グループワークでグループ編成を行う場合は、職種や経験年数、被災経験等を考慮する必要があるとあり、グループ編成に関する企画側の準備や留意点について明記する必要があること等が確認された。保健師の意見・感想としては、事前準備から当日の運営、評価までの流れが詳細に示されているため自立的な研修の実施が可能であり、本マニュアルを活用して保健師の意識向上に取り組みたいとの意見があった。一方で、災害時の保健活動のイメージが持ていない職員もいる為、職員が災害時保健活動のイメージが持てるような動画教材が欲しい等の意見があった。

本マニュアルが活用されることにより、都道府県、保健所、市町村において主体的に保健師の災害時保健活動遂行能力の向上を目的とした研修の実施、ひいては災害時保健活動遂行能力の向上に繋がる事を期待する。

研究協力者

浅田義和	自治医科大学医学教育センター 准教授
石谷 絵理	北海道立江差高等看護学院 学院長
尾島俊之	浜松医科大学医学部 教授
宮崎美砂子	千葉大学大学院看護学研究院 教授

能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」を完成させることを目的とした。

B. 研究方法

1. 研究分担者・協力者との意見交換

令和4年2月に研究分担者、協力者間でWEB会議を開催し、意見交換の場を設けた。意見交換にあたっては事前にマニュアル案を送付し、精読をしてもらった。

A. 研究目的

本研究では、令和2年度、令和3年度にeラーニング教材と演習教材¹⁾を作成した。その研究成果を基に、「市町村保健師の災害時保健活動遂行

2. 本マニュアルに対する自治体保健師の意見・感想の把握

本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実

施・評価を行った自治体保健師、及び今後本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を行う予定のある自治体保健師に対し、マニュアルに対して意見や感想を貰えるよう依頼した。メール添付でマニュアルの PDF ファイルを送付し、意見・感想が貰えるよう依頼した。調査項目は①「マニュアルを活用して自立的に研修ができそうか。『研修ができそう』という場合、どの様な点が良いか。「難しそう」という場合、なぜ難しいのか。」②「自立的に研修ができそう・難しそうに関わらず、マニュアルについて改善したほうが良いと思う点」、③その他、全体的な意見・感想、とした。

3. 倫理的配慮

自治体保健師への協力依頼については、文書または口頭にてマニュアルに対する意見・感想の把握の目的と方法、倫理的配慮を研究代表者及び研究分担者より説明し、同意を得た。

なお、本研究は研究者が所属する倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 結果

1. 研究分担者・協力者との合意形成

以下の点について留意することが確認された。

①グループワーク等でグループ編成を行う場合

<p>I. 本マニュアルの目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 2. 活用対象 <p>II. 本マニュアルで活用している教育教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. eラーニング教材 2. 演習教材 <p>III. 研修プログラムの作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修の目的を考える <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象 2) 目的・目標 2. 研修プログラムを作成する <ol style="list-style-type: none"> 1) 時間 2) 研修プログラムの構成 3) 教材の選定 <p>IV. 研修の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前準備 <ol style="list-style-type: none"> 1) 準備すること 2) 準備するモノ 2. 当日の準備／研修の開始 <ol style="list-style-type: none"> 1) 当日の準備（設定）／会場設営 2) オリエンテーション 3. その後につなげる／評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) リフレクション／アクションプラン 	<p>V. 研修プログラム例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修プログラムA（一都道府県内の市町村保健師を対象としたWEB研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－ 2. 研修プログラムB（一保健所管内の市町村及び保健所の保健師等を対象としたWEB研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－ 3. 研修プログラムC（都道府県主催の市町村及び保健所の保健師を対象としたWEB研修） －豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－ 4. 研修プログラムD（保健所主催による管内市町村の保健師を対象とした集合研修又はWEB研修） －大規模地震事例の演習教材を活用したプログラム－ 5. 研修プログラムE（市町村保健師を対象とした集合研修） －大規模地震発生時を想定した既存の演習教材（避難所HUG）を活用したプログラム－ 6. 研修プログラムF（市町村における全保健師を対象とした集合研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－ 7. 研修プログラムG（都道府県主催の市町村及び当該都道府県の保健師を対象とした集合研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－ <p>参考資料 「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」</p>
--	--

図「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」の項目

は、職種や経験年数、被災経験等を考慮する必要があるため、グループ編成に関する企画側の準備や留意点について明記する必要がある。

②異なる自治体の職員が集まって実施する研修に加え、1つの市町村の中で、マニュアル整備や体制づくりのために活用できるための活用の仕方や、応用のポイントについて記載する必要がある。

③研修受講前にeラーニング教材に円滑に取り組めるようにするため、eラーニング教材の使い方に関する説明の機会を設けることについても記載する必要がある。

2. 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」の内容

本マニュアルを末尾の資料に示す。マニュアルの内容に研究分担者・協力者の意見を反映させると共に、マニュアルの構成は保健師にとって分かりやすく、手に取って読みたくなるようなデザインとなるよう留意した。また、研修の受講前後に、受講者が自己評価できるためのコンピテンシー・チェックシート²⁾を参考資料として添付した。本マニュアルの項目を図に示す。

3. 自治体保健師の意見・感想の把握

本マニュアルに対する意見・感想は、4 か所の自治体の保健師（本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を行った3自治体の保健師、及び、今後、本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を行う予定のある1自治体）の

うち、本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を行った1自治体（A市）、及び今後本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を行う予定のある1自治体（B市）の保健師各1名より意見・感想が得られた。表に本マニュアルに対する保健師の意見・感想の内容を示す。

表 本マニュアルに対する自治体保健師の意見・感想の内容

	A市	B市
1. マニュアルを活用して自立的に研修ができそうか 研修ができそうという場合、どのような点が良いか 難しそうという場合、なぜ難しいのか	<p>自立的な研修は可能である。</p> <p>・研修を進める過程である事前準備から当日の運営、研修後につなげるための評価までの流れが詳細に示されており、研修のイメージがしやすいマニュアルである。</p>	<p>自立的な研修は難しい。</p> <p>・研修の企画運営はできそうだが、研修開催には指導者が必要である。研修課題達成のためには、特にグループワークでは指導者の助言が必須であると感じる。職員が指導するのは、知識不足で難しい。</p> <p>・求められるコンピテンシーとeラーニング教材や状況設定のリンクが難しい。</p>
2. 自立的に研修ができそう・難しそうに関わらず、マニュアルについて改善したほうが良いと思う点	<p>・本市の状況としては、これまで十分なシミュレーションができていないため、予定時間内のグループワークは難しいのではないかと感じた。意見が出にくい場合、参加者の状況によって時間の延長を行った方が良いのか、時間が足りない、意見が出にくいことも含めて課題とし、リフレクションに繋がった方が良いのか疑問を感じた。</p> <p>・改善点は特にないが、eラーニング教材の新型コロナウイルス感染症については避難所における保健活動に変更はないと考えられるが、感染症についての対応状況は変わっていくことが考えられるため、研修の時期に応じて新たな情報を研修会場において追加していくことが必要と感じた。</p>	<p>・求められるコンピテンシーとeラーニング教材とのリンク状況の表示</p>
3. その他、全体的な意見・感想	<p>・研修を効果的に実施するためには参加者の事前学習が必要であり、eラーニング教材の確認と保健活動マニュアルの確認は必須と感じた。また、自治体ごとの防災計画、避難所運営マニュアル等の確認が必要である。</p> <p>・自治体ごとの（避難所運営）マニュアルについては、準備状況が様々であると考えられるため、研修を繰り返しながら（避難所運営）マニュアルについても見直していくことが可能である。</p> <p>・研修プログラムEの避難所運営ゲームHUGIについては内容を十分に理解していないため、個人的にはHUGIについての事前学習が必要である。</p> <p>・災害時の保健活動については平常時からの備えが最も重要である。日頃の地域活動の中での取り組みを進めるため、本マニュアルを活用し、まずは保健師の意識向上に取り組みたい。</p>	<p>・災害時の保健活動に対しては、職員のイメージが多岐に渡る。イメージのない者もある。災害が起こらない地域ほど、そうかもしれない。まず職員の災害時の保健活動のイメージの意識統一ができる動画が是非欲しい。</p>

※A市：本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を実施、B市：未実施（今後実施を予定）

1) 本マニュアルを活用した自立的な研修実施の可否についての保健師の意見・感想の内容

本研究班の教育教材を活用し研修の企画・実施・評価を行ったA市保健師は、「自立的な研修は可能」と述べており、その理由は「事前準備から当日の運営、研修後につなげるための評価までの流れが詳細に示されており、研修のイメージがしやすい」ことを挙げていた。

一方、今後本研究班の教育教材を活用し研修

の企画・実施・評価を行う予定のB市保健師は「自立的な研修は難しい」としており、その理由は「研修の企画運営はできそうだが、研修開催には指導者が必要である。研修課題達成のためには、特にグループワークでは指導者の助言が必須であると感じる。職員が指導するのは、知識不足で難しい」と述べていた。

2) マニュアルについて改善したほうが良いと思う点についての保健師の意見・感想の内容

A 市保健師は、「各研修プログラムの予定時間内でのグループワークは難しいのではないかと感じた。意見が出にくい場合、参加者の状況によって時間の延長を行った方が良いのか、時間が足りない、意見が出にくいことも含めて課題とし、リフレクションに繋がった方が良いのか疑問を感じた。」と述べていた。また、「eラーニング教材の新型コロナウイルス感染症については避難所における保健活動に変更はないと考えられるが、感染症についての対応状況は変わっていくことが考えられるため、研修の時期に応じて新たな情報を研修会場において追加していくことが必要と感じた。」と述べていた。B 市保健師は、「求められるコンピテンシーと e ラーニング教材とのリンク状況の表示」を挙げていた。

3) その他の全体的事に関する保健師の意見・感想の内容

A 市保健師は、「研修を繰り返しながら（避難所運営）マニュアルについても見直していくことが可能」とし、「本マニュアルを活用し、まずは保健師の意識向上に取り組むたい。」と述べていた。また、研修プログラム E については、HUG³⁾についての事前学習が必要」と述べていた。B 市保健師は、「職員の災害時の保健活動のイメージの意識統一ができる動画が是非欲しい。」と述べていた。

D. 考察

1. 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」の内容

1) 自立的な研修が実施可能となる為の方法

A 市保健師は、「自立的な研修は可能」とした理由として「事前準備から当日の運営、研修後につなげるための評価までの流れが詳細に示されており、研修のイメージがしやすい」、「研修を繰り返しながら（避難所運営）マニュアルについても見直していくことが可能」、「本マニュアルを活用し、まずは保健師の意識向上に取り組むたい。」と述べていたことから、

マニュアルに対する一定の評価が得られたと考えられる。一方で、B 市保健師は「自立的な研修は難しい」としていた。B 市は本研究班の教育教材を活用した研修の企画・実施・評価は未実施（今後、実施予定）であり、研修の一連のプロセスを体験していないため研修の企画・実施に対するイメージが持ちにくいことから「自立的な研修は難しい」と認識している可能性が考えられる。今後は実際に実施した後に再度、意見・感想を把握していく必要がある。また、B 市保健師の「研修の企画運営はできそうだが、研修開催には指導者が必要」、「研修課題達成のためには、特にグループワークでは指導者の助言が必須」、「職員が指導するのは、知識不足で難しい」との意見については、地域の健康危機管理の拠点である保健所の保健師がまず管内市町村保健師を対象とした研修を実施し、その後管内の市町村保健師の状況に応じて実施していけるようにサポートしていく事も一法と考えられる。また、研修を実際に自組織で実施し、保健師達が自ら考える機会をもつことが、保健師自身や組織の強みと課題を認識すること、立案するアクションプランを受講後の実際の実践に繋げて行けるようにする事に意義がある、ということの本マニュアルに明記していく必要がある。

2) グループワークの時間設定について

A 市保健師は、「各研修プログラムの予定時間内でのグループワークは難しいのではないかと感じた」と述べていたが、集合研修の場合は研修会場までの移動時間も加味した時間の設定が必要と考えられる。研修を企画・実施する保健師は、受講対象者のニーズを踏まえた時間設定や、研修目的・目標を達成するために研修プログラムの時間配分をどの様にするかについて事前に検討する必要性についても明記しておく必要がある。

3) 受講者が災害時保健活動のイメージを持つ様にするための教育教材の工夫について

B 市保健師は、「職員の災害時の保健活動のイメージの意識統一ができる動画が是非欲しい

い。」と述べていた。今後は、受講する保健師が災害時の保健活動のイメージを、よりリアルに持てるような、動画を活用した演習教材を作成・工夫していくことも効果的な一法であると考えた。

4) 災害時保健活動に関わる最新情報を提供し ていけるようにする

A 市保健師は、「e ラーニング教材の新型コロナウイルス感染症については避難所における保健活動に変更はないと考えられるが、感染症についての対応状況は変わっていくことが考えられるため、研修の時期に応じて新たな情報を研修会場において追加していくことが必要と感じた。」と述べていた。新型コロナウイルス感染症を例にあげると、感染拡大の状況に応じて対応方法が変化してきたことから、感染症のみならず、災害時保健活動に関わる最新情報を、研修の中で提供していくことについてマニュアルに明記しておく必要がある。

5) 保健師に求められるコンピテンシーと e ラーニング教材とのリンクを分かりやすくするための工夫

B 市保健師は改善したほうが良いと思う点として、「求められるコンピテンシーと e ラーニング教材とのリンク状況の表示」を挙げていた。本マニュアルにおいては、保健師に求められるコンピテンシーと e ラーニング教材とが、どの様にリンクしているかについて、より分かりやすく読み手に伝わるような示し方の工夫が必要と考える。

6) 既存の演習教材に関する情報提供について

A 市保健師は、研修プログラム E については「HUG についての事前学習が必要」と述べていた。既存の演習教材を活用したプログラムを実施するためには、まず企画する保健師がその演習教材について理解しておくことが必要であるため、演習教材の入手方法や活用できるようになるための研修情報についても明記しておく必要があると考える。

E. 結論

本マニュアルが活用されることにより、都道府県や保健所、市町村において主体的に保健師の災害時保健活動遂行能力の向上を目的とした研修の実施、ひいては災害時保健活動遂行能力の向上に繋がる事を期待する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

引用文献

- 1) 春山早苗, 安齋由貴子, 牛尾裕子, 奥田博子, 島田裕子, 江角伸吾 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のための教育教材及び活用マニュアルの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和 2 年度総括研究報告書 (研究代表者 春山早苗), 1-98, 2021.
- 2) 宮崎 美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金谷泰宏, 金吉晴, 植村直子 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 平成 30 年度総括・分担研究報告書 (研究代表者 宮崎美砂子) 1-197, 2019.
- 3) 静岡県危機管理部 避難所運営ゲーム (HUG). 2022 年 4 月 29 日静岡県ホームページ確認

令和2-3年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び
その活用マニュアルの作成と検証」

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る 教育教材活用のためのマニュアル

令和4年3月

はじめに

近年、自然災害が多発し、今後もその発生が予想されています。市町村保健師には災害時に住民の健康生活を守り支えることや保健活動のマネジメントが期待され、それらの役割を發揮するためには平時から災害時に求められる能力を向上させる必要があります。都道府県や市町村ではキャリアラダーに基づく人材育成が推進されていますが、中堅期以降の保健師について、健康危機管理能力の獲得状況は他と比べて低いことが明らかになっています。この理由として、保健師からは能力獲得のための具体的な知識・技術等がわからない、教育研修の企画が難しい等の声が聞かれます。

先行研究において、統括保健師の災害時コンピテンシー及び実務保健師の災害時コンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度が明らかにされており、また統括保健師のための災害に対する管理実践マニュアル・研修ガイドライン（宮崎ら，2018）及び実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（宮崎ら，2020）が作成されています。これらの研修ガイドラインでは、いくつかのコンピテンシーに焦点を当て、講義・演習・リフレクションを組み合わせた研修企画方法が示されています。本研究班では先行研究の知見を踏まえて、実務保健師の災害時保健活動の遂行に求められる知識・技術・態度の基本を獲得するためのeラーニング教材を作成しました。また、実務保健師の災害時コンピテンシーに関わる演習の方法や内容を具体的に検討し、演習教材も作成しました。

本マニュアルは、市町村、それを支援する保健所や都道府県が、前述したeラーニング教材や演習教材を効果的に活用して、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上を目指した教育研修を主体的に企画・実施できることを目的に作成しました。複数の研修プログラム例を掲載していますが、これらは実際に市町村保健師等を対象に研修として実施し、その評価に基づき改善を図ったものです。また、新型コロナウイルス感染症のまん延により従来どおりの集合研修が難しくなっていることも鑑みて、WEB研修の場合についても触れ、研修プログラム例も掲載しています。

本マニュアルは“市町村保健師の災害時保健活動遂行能力”に焦点を当てていますが、言うまでもなく、発災時には市町村内の他部署・他職種間の連携や市町村と保健所との連携が重要となります。災害時保健活動に関する研修についても、市町村保健師のみを対象としたものは少なくなっているように思います。本マニュアルは、他部署・他職種を交えた研修や市町村と保健所との研修においても活用することができ、発災時の連携・協働の基盤体制づくりに役立つものと考えています。また、演習の状況設定や課題については、各自治体や組織の状況に合わせて、また過去の被災経験等も参考にアレンジしていただくと、より有用な研修になると思います。

本マニュアルに示したような研修のみで災害時保健活動の遂行能力を高めることは難しいと考えます。しかし、研修やそれを企画する過程が、実務保健師の災害時コンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度を意識化し、保健師自身や組織の強みと課題を認識する機会となり、強みも活かして課題へ対応するための平時からの取組につなげていただければ幸甚です。

令和4年3月

研究代表者
自治医科大学看護学部 春山早苗

目次

I 本マニュアルの目的	1
1. 目的.....	1
2. 活用対象.....	1
II 本マニュアルで活用している教育教材	2
1. eラーニング教材.....	2
2. 演習教材.....	5
III 研修プログラムの作成	6
1. 研修の目的を考える.....	6
1) 対象.....	6
2) 目的・目標.....	6
2. 研修プログラムを作成する.....	6
1) 時間.....	6
2) 研修プログラムの構成.....	6
3) 教材の選定.....	6
IV 研修の進め方	7
1. 事前準備.....	7
1) 準備すること.....	7
2) 準備するモノ.....	9
2. 当日の準備／研修の開始.....	10
1) 当日の準備（設定）／会場設営.....	10
2) オリエンテーション.....	10
3) 実施.....	10
3. その後につなげる／評価.....	11
1) リフレクション／アクションプラン.....	11
V 研修プログラム例	12
1. 研修プログラムA（一都道府県内の市町村保健師を対象としたWEB研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	12
2. 研修プログラムB（一保健所管内の市町村及び保健所の保健師等を対象としたWEB研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	19
3. 研修プログラムC（都道府県主催の市町村及び保健所の保健師を対象としたWEB研修） －豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	25
4. 研修プログラムD（保健所主催による管内市町村の保健師を対象とした集合研修またはWEB研修） －大規模地震事例の演習教材を活用したプログラム－.....	34
5. 研修プログラムE（市町村保健師を対象とした集合研修） －大規模地震発生時を想定した既存の演習教材（避難所HUG）を活用したプログラム－.....	41
6. 研修プログラムF（市町村における全保健師を対象とした集合研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	48
7. 研修プログラムG（都道府県主催の市町村及び当該都道府県の保健師を対象とした集合研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	56
参考資料	
「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」.....	62

I 本マニュアルの目的

1. 目的

市町村やそれを支援する保健所が災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための現任教育をより主体的に実施していくためには、教育教材を含む具体的な教育方法の検討が必要です。本マニュアルは、市町村や保健所が教育教材を効果的に活用して教育研修を企画・実施できることを目的に作成しました。本マニュアルでは、特に市町村保健師の課題とされているフェーズ0からフェーズ2（受援を含む）までの災害時保健活動遂行能力向上のための教育研修の企画・実施に焦点を当てています。

2. 活用対象

活用対象は、主に都道府県や保健所、市町村の災害時保健活動遂行能力向上に係る研修を企画・実施する保健師です。

II 本マニュアルで活用している教育教材

1. eラーニング教材

eラーニング教材の作成にあたっては、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」¹⁾（巻末参考資料）を参考に、コンテンツの単元およびコンテンツの柱を検討しました（表1）。各コンテンツに含まれる習得すべき知識・技術・態度の内容を表2に示します。

このeラーニングは、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材」<https://dphn-training.online/moodle/> にアクセスし、アカウントを作成すれば、誰でも視聴することができます。eラーニングを初めて視聴する際に、「アカウント登録およびコース自己登録について」の説明動画を確認してください。



上記画面の『災害時保健活動eラーニング』のコンテンツをクリック後、下記画面で新しいアカウントを作成してください。



表1 eラーニングのコンテンツ内容と目標

目標と内容		所属	氏名	時間
1. 本eラーニング教材について		自治医科大学看護学部・教授	春山 早苗	5分
2. 災害支援の基本				
目標	災害支援の基本を理解する			
内容	1)災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制	和歌山県新宮保健所兼串本支所・所長	池田 和功	22分
	2)フェーズ毎の保健活動	千葉大学大学院看護学研究科・教授	宮崎 美砂子	21分
	3)都道府県、保健所、市町村、各々の役割と連携	千葉大学大学院看護学研究科・教授	宮崎 美砂子	12分
	4)災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み	国立保健医療科学院健康危機管理部・上席主任研究官	奥田 博子	24分
	5)受援についての体制づくり	国立保健医療科学院健康危機管理部・上席主任研究官	奥田 博子	20分
3. 避難所活動の基本				
目標	避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防するために必要な知識を習得する			
内容	1)避難所運営と保健活動の基本① 避難所運営と保健活動の基本②	自治医科大学看護学部・教授	春山 早苗	13分 15分
	2)避難所における迅速アセスメント	浜松医科大学医学部・教授	尾島 俊之	18分
	4)災害時の二次的健康被害の理解	栃木県県南健康福祉センター・地域保健部長補佐	中村 剛史	17分
	5)心理的応急処置(サイコソジカル・ファーストエイト:PFA)危機的出来事に見舞われた人々への支援と支援者自身のケア	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 災害支援研究室	大沼 麻美	19分
	4. 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応			
目標	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた避難所における保健活動に必要な知識を習得する。			
内容	1)新型コロナウイルス感染症とは① 新型コロナウイルス感染症とは②	自治医科大学附属病院感染制御部・部長・感染症科・科長	森澤 雄司	22分 14分
	2)新型コロナウイルス感染症対策の基本	結核研究所 臨床・疫学部 疫学情報センター	濱口 由子	11分
	3)避難所における新型コロナウイルス感染症への対応① 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応②	奈良県立医科大学感染症センター・感染管理室	笠原 敬	17分 14分

表2 コンテンツの目標と内容と習得すべき必要な知識・技術・態度の内容

目標と内容	(フェーズ0~1) 習得すべき知識・技術・態度	(フェーズ2~3) 習得すべき知識・技術・態度
1. 本eラーニング教材について		
2. 災害支援の基本		
目標	災害支援の基本を理解する	
内容	1) 災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制	
	2) フェーズ毎の保健活動	
	3) 都道府県、保健所、市町村、各々の役割と連携	I-1. 被災者への応急対応 ・指示命令系統の理解 ・統括保健師と実務保健師の役割分担の理解 ・応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解 I-2. 救急医療の体制づくり ・統括保健師を補佐する役割の理解 ・地域防災計画における医療救護体制の理解 I-5. 外部支援者の受入に向けた準備 ・外部支援者の種別・職務の理解 ・被災現場の保健師と外部支援者の協働の理解 ・外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解 II-4. 外部支援者との協働による活動の推進 ・チームビルディングの方法の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用
	4) 災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み	I-1. 被災者への応急対応 ・応援の必要性の判断 ・応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解 I-5. 外部支援者の受入に向けた準備 ・外部支援者の種別・職務の理解 ・被災現場の保健師と外部支援者の協働の理解 ・外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解 II-4. 外部支援者との協働による活動の推進 ・チームビルディングの方法の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用
3. 避難所活動の基本		
目標	避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防するために必要な知識を習得する	
内容	1) 避難所における保健活動の基本① 避難所における保健活動の基本②	I-1. 被災者への応急対応 ・保健福祉的視点からのトリアージ ・要配慮者の判断基準 ・保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解 ・自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施 ・災害時の二次的健康被害の理解 ・避難先での被災者の健康状態の把握 ・避難環境のアセスメント ・感染症予防対策の実施 ・急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する理解 I-3. 要配慮者の安否確認と避難への支援 ・安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断 ・要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント ・連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント ・発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 ・感染症予防・食中毒予防に関する技術 ・災害時における啓発普及の技術 II-5. 要配慮者への継続的な支援体制づくり ・二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント II-6. 自宅滞在者等への支援 ・地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応
	2) 避難所における迅速アセスメント	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施 I-4. 被災地支援のアセスメントと支援ニーズの明確化（迅速評価） ・避難所等巡回による情報収集の体制づくり ・関係者や災害対策本部から入手した情報の活用 ・被災地域の迅速評価 ・数量データによる、健康課題の根拠の提示 ・優先度の高い課題と対象のリストアップ ・支援の必要性と内容に関する判断 II-3. 被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価） II-6. 自宅滞在者等への支援 ・地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応 ・潜在的な支援ニーズ把握のための健康調査の企画と実施の体制づくり

表2 コンテンツの目標と内容と習得すべき必要な知識・技術・態度の内容（続き）

目標と内容	(フェーズ0~1) 習得すべき知識・技術・態度	(フェーズ2~3) 習得すべき知識・技術・態度
3) 避難所における感染予防対策の基本	I-1. 被災者への応急対応 ・避難環境のアセスメント ・感染症予防対策の実施	II-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり ・個人・家族による健康管理のセルフケアの体制づくり II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント ・発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 ・感染症予防・食中毒予防に関する技術 ・災害時における啓発普及の技術
4) 災害時の二次的健康被害の理解	I-1. 被災者への応急対応 ・災害時の二次的健康被害の理解 ・避難環境のアセスメント ・感染症予防対策の実施	II-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり ・亜急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識 ・廃用性症候群の理解と防止策の実施 ・関連死のリスク兆候の理解と対応 II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント ・発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 II-5. 要配慮者への継続的な支援体制づくり ・二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント II-6. 自宅潜在者等への支援 ・地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応 ・車中泊・テント泊等の二次的健康被害の予防と対策の理解
4. 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応		
目標	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた避難所における保健活動に必要な知識を習得する	
内容	1) 新型コロナウイルス感染症とは① 新型コロナウイルス感染症とは②	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施
	2) 新型コロナウイルス感染症対策の基本	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施
	3) 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応① 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応②	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施
		II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・感染症予防・食中毒予防に関する技術
		II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・感染症予防・食中毒予防に関する技術
		II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・感染症予防・食中毒予防に関する技術

2. 演習教材

演習教材は、eラーニングだけではカバーできない複数のコンピテンシーにまたがる知識・技術・態度を総合的に適用する必要がある課題について考える内容としました。演習を通じて習得する能力は、思考・判断・意思決定を行動化する能力であり、演習の方法は、このような能力の習得を目指してケースメソッドとしました。取り上げた課題は、これまでの自然災害への対応におけるフェーズ0～2において、保健師が直面する保健活動拠点や避難所の場面や状況を設定し、かつ保健師がその対応に困難を感じたり、混乱が生じたりしやすい課題としました。具体的には、新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の教材及び大規模地震事例の教材です。以下の、V 研修プログラム例のA～C、F、Gでは前者の教材を、D、Eでは後者の教材を活用しています。各教材は研修参加者の所属自治体の状況に応じて、状況等を変えることができるものとなっています。また、集合研修だけではなく、WEB研修でも活用できるものとなっています。

Ⅲ 研修プログラムの作成

研修プログラムの作成について、以下に述べます。研修プログラムの作成にあたっては、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」¹⁾も参考にしてください。

1. 研修の目的を考える

1) 対象

研修の対象を検討し、明確にします。対象によって、次の研修の目的・目標の設定が異なってくる可能性があるため、研修の対象を検討することは重要です。本マニュアルは、市町村の実務保健師を対象とした研修を想定して作成しています。しかし、災害対応においては、市町村と保健所との連携や、他職種との連携も重要であるため、研修においても市町村と保健所、両方の保健師を含む多職種を対象に企画することもあるでしょう。本マニュアルで活用している教材や研修プログラム例は、そのような研修でも活用できるものです。

2) 目的・目標

本マニュアルは、フェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における市町村保健師の災害時保健活動遂行能力を高めることを目的とした研修を想定して作成しています。

目的から、さらに当該研修で到達を目指す具体的な目標を考えます。目標を考える際には、研修の対象者が保健師のキャリアラダーにおいて、どの段階にあるかを考慮するとよいでしょう。また、「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」（巻末参照）を活用することもできます。実務保健師の災害時のコンピテンシーを参考に研修の目標を設定したり、あるいは、研修の対象者に「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価の実施と提出を求め、その結果から、自己評価が低い傾向にあるコンピテンシーを目標に設定することも考えられます。

目標は研修評価の指標にもなりますが、研修によって災害時のコンピテンシーが高まったかどうかを評価することは困難です。また、研修だけで災害時のコンピテンシーが高まるものではないと考えます。研修においては、災害時に求められるコンピテンシーを理解すること、それを踏まえて参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出すこと、そして、災害発生に備えて、具体的なアクションプランを考えられることなどを目標とするとよいでしょう。

2. 研修プログラムを作成する

1) 時間

研修プログラムの作成にあたっては、まず研修時間を設定します。現場では半日程度の研修が多く、またそれが実施しやすいと考え、Ⅳ 研修プログラム例は3時間～3時間半のプログラムとしています。

2) 研修プログラムの構成

次に研修プログラムの構成を考えます。本マニュアルでは、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」¹⁾を参考に、レクチャー、ワークショップ（演習）、リフレクションを組み合わせ構成する研修プログラムとしています。但し、レクチャーにはeラーニング教材を活用し、その特定のコンテンツを事前学習に位置付けたり、あるいはワークショップ（演習）の前後に研修参加者全員で視聴したりするプログラムとしています。

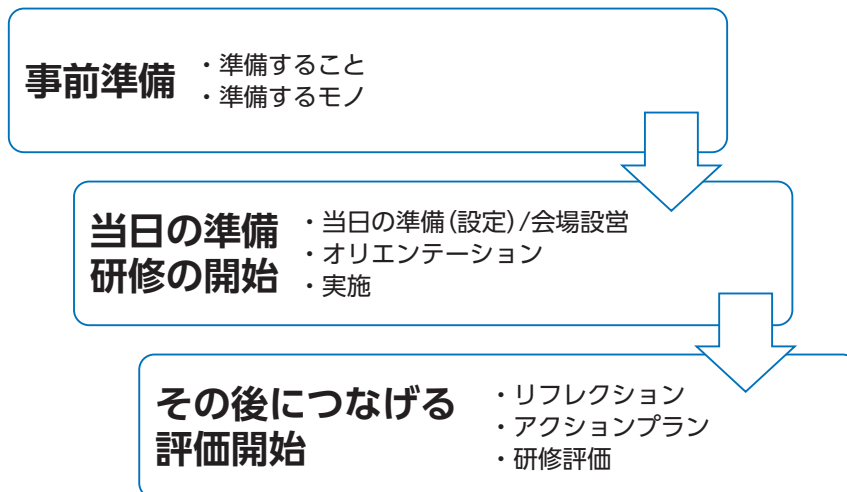
次の教材の選定とともに、レクチャー部分を事前学習とするか、研修プログラムに含めるか、レクチャー、ワークショップ（演習）、リフレクションをどのように組み合わせるか、それぞれの時間をどのように設定するか、考えます。リフレクション（アクションプランの立案）には最低30～40分は必要です。Ⅴ 研修プログラム例を参考にしてください。

3) 教材の選定

研修の目的・目標を達成するための教材を選定します。1の2)目的・目標の項で、目標の設定のために、「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」を活用することについて述べましたが、目標に関連するコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度を明確にし、レクチャーに相当するeラーニング教材の各コンテンツの習得すべき知識・技術・態度を照らし合わせ（表2を参照）、どのコンテンツを研修の事前学習あるいは研修中に活用するか、決定します。各コンテンツの時間も考慮して（表1を参照）、活用するコンテンツを決定します。演習教材については、Ⅴ 研修プログラム例を参考にしてください。状況設定と複数の演習課題で構成されており、1つの演習課題は説明、個人ワークまたはグループワーク、発表を併せて20～30分としています。研修において、その目的・目標と照らし合わせて、どの演習課題を選定するか、いくつの演習課題を設定するか、時間も考慮して検討します。

IV 研修の進め方

研修を進める過程には、事前準備、当日の準備と研修の開始、その後につなげる／評価があります。



1. 事前準備

1) 準備すること

- 地域特性を考慮して状況設定を決定する
- 演習を効果的に行うために参加者への事前課題・事前準備を決定する
- 研修に参加にあたっての注意点を整理し、参加者に事前に周知する
- 演習を効果的に行うための演習グルーピング及び企画運営側の役割分担を決定する

①参加者への事前課題

事前課題は、研修の目的・目標によりませんが、以下のようなことが考えられます。

- ・ eラーニング教材の視聴
Ⅲの2の3) で述べたように、研修の目的・目標の到達に関連する知識・技術・態度を含む eラーニング教材のコンテンツを選定し、その視聴を事前課題とする。
- ・ 所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認
特に所属部署や保健師の役割を確認した上で、研修に臨んでもらう。
- ・ 「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価
これを行うことにより、発災後のフェーズに応じて、実務保健師にどのようなコンピテンシー及び知識・技術・態度が求められるのか、具体的に認識することや、当該研修の目標がどのようなコンピテンシー及び知識・技術・態度と関連しているのかを明示して自己評価を依頼した場合には、研修の目標をより理解することにつながる。これらのことは、研修の準備状況を高めることとなる。

「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価は、Ⅱの1. eラーニング教材の項で示した、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材」<https://dphn-training.online/moodle/> にアクセスすることにより、WEB上で実施可能である。しかし、WEB上で実施した場合、その結果を研修企画者が把握することはできないため、Ⅲの1の2) 目的・目標で述べたように、研修企画者がこの自己評価を目標設定などに活用したい場合には、紙媒体あるいは電子媒体で「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」のチェックシートを配付・配信し回収するとよい。

【「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」のWEB上での自己評価】
「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材」
https://dphn-training.online/moodle/ にアクセスします。

ログイン後、サイトホームまたはダッシュボードを選択し、該当するチェックシートをクリックします。

シートは、[超急性期（フェーズ0～1）発災直後～72時間]、[急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）中長期]、[慢性期（フェーズ4）復旧・復興期]、[平穩期（平常時の備えの時期）]の4種類があります。

以下は、ログイン後のサイトホームの画面です。画面を左下までスクロールして『チェックシート』をクリックします。



② 研修主催側の事前準備

・(WEB研修の場合) 研修資料の郵送または配信

・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握

ワークショップ(演習)やリフレクションにおいて、発表者を決める参考になる

・(WEB研修の場合) ネット環境の把握、具体的には、アクセス場所やアクセス端末数(一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など)

ワークショップ(演習)のグループ編成の参考になる

・グループ編成

ワークショップ(演習)やリフレクションのグループ編成を考える必要がある。その際には、職種、経験年数や被災経験の有無、所属自治体等を考慮して編成する。ワークショップ(演習)における各課題やリフレクションの目的と照らして、例えば、発災時を想定して様々な人々と共に考え協働する疑似体験をすること、ディスカッションしやすくすること、規模や組織体制が類似した自治体との情報や意見も参考にして所属組織・自治体の今後の取り組みを考えること等、何を重視するかを考え、グループを編成する。

(WEB研修の場合)

WEB研修の場合、同じ端末や場所からの参加者、つまり同じ部署や自治体毎のグループ編成となる。参加者をWEB上で少人数の複数グループに分ける機能が使用できる場合には、異なる部署や自治体の参加者から成る混合グループの編成が可能となる。前者の場合、また後者の場合でも、同じ部署や自治体毎にワークを行った後、混合グループワークがある場合には、部署や自治体から一人で参加している者への配慮が必要である。一人で参加している者でグループ編成をしたり、研修主催側のメンバーが質問に応じる、課題等に取り組みやすいようにサポートする等したりするとよい。また、研修参加者を募る際に、同じ部署や自治体から複数、参加してもらうよう、研修の趣旨等を伝えて働きかけることも必要である。

・参加者へ事前に周知すること

✓ 当日使用するもの

必要時、所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル

(WEB研修の場合)

✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと

✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること

✓ 当日の連絡・問い合わせ先(ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合)

・(WEB研修の場合) 事前に接続テストをすることが望ましい

接続テストをする場合には、研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

2) 準備するモノ

① 研修参加者が準備するモノ

✓ 事前配付・配信資料

(依頼があった場合) 所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル

✓ メモ(A4用紙3枚程度)及び筆記用具

② 研修主催側が準備するモノ

・参加者への配付用演習ワークシート

(WEB研修の場合)

事前に郵送または配信する。また、WEB上で共有できるシートを活用すると、参加者間やグループメンバー間でワークシートの内容、つまり話し合った内容や検討した内容を共有しやすい。自治体によっては、セキュリティの問題から、WEB上の共有シートにアクセスできない場合もあるため、事前の接続テスト等において確認しておく必要がある。アクセスできない場合には、事前にワークシートの電子ファイルを送り、研修当日は画面で共有するという方法も考えられる。

・グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

(WEB研修の場合)

- ・ネットにアクセス可能なPC 2台及びネット環境が安定している場所の確保
PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備することが望ましい
停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておくことも重要である
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話

2. 当日の準備／研修の開始

1) 当日の準備（設定）／会場設営

- 研修内容やグループ数等に応じて会場設営を行うとともに、必要物品等を準備する
- (WEB研修の場合)
ネットにアクセス可能な場所で、PC 2台を設置し、ヘッドセットで使用する参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する
- スケジュール等、研修主催側の事前打ち合わせ・確認を行う

2) オリエンテーション

- 研修全体のオリエンテーションを行う
- オリエンテーションでは、当該研修の目的・目標、その目的・目標と当該自治体の人材育成計画や保健師キャリアラダーとの関係、当該自治体の災害時保健活動や保健師の災害時保健活動遂行能力の課題との関連等について説明する。研修の目的・目標の検討等のために、事前課題として「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価の実施と提出を求めた場合には、オリエンテーションにおいて、その結果を示し、研修参加者の強みと課題を共有することによって、研修の目的・目標の理解や研修へのモチベーションを高めることにつながると考えられる
- 当該研修のスケジュールを説明する

3) 実施

- ワークショップ（演習）については、必要時、方法や状況設定、取り組む上での注意点などのオリエンテーションを行う
- 具体的な展開については、V 研修プログラム例を参照のこと

3. その後につなげる／評価

1) リフレクション／アクションプラン

- リフレクションの方法やそのためのシートについては、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」¹⁾を参照のこと
- 『気づきを促す』ことを目的に個人のリフレクションを行い、シートに記載する（個人ワーク）
- 『学びの意味づけを促す』ために個人のリフレクションの内容をグループ内で発表し合い、参加者自身やその所属組織の強みと課題を見いだせるような質疑応答を行う（グループワーク）
- リフレクション（個人ワーク及びグループワーク）を踏まえ、今後に向けたアクションプランを考え、シートに記載する。これは個人ワークでもよいし、市町村単位や保健所単位等でもよい。アクションプランは、具体的かつ実行可能なものを必ず1つ含める。「2か月以内のアクションプラン」「6か月以内のアクションプラン」などと期限を設定して考えてもらうのもよい
（WEB研修の場合）
考えたアクションプランはチャットに記載してもらう
- 研修後につなげるために、リフレクション／アクションプランは同じ市町村や保健所でグルーピングする
- 最後に参加者数人に、参加者自身やその所属組織の強みと課題及びアクションプランを発表してもらう。発表者は事前に把握した経験年数や災害対応経験の有無などを参考に、経験年数の少ない保健師から多い保健師、災害対応経験のない保健師から経験のある保健師、担当業務の異なる保健師（母子、健康づくり、高齢者／介護予防など）、異なる市町村・保健所の保健師などと考慮して選定する

V 研修プログラム例

1. 研修プログラムA（一都道府県内の市町村保健師を対象としたWEB研修）

－新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

一都道府県及び市町村の保健師

2) 目的・目標

コロナ禍における風水害発生時の保健師活動を疑似体験し、風水害発生時の保健師活動方法を考え、自所属の災害対策への課題を見出す

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況をイメージしながら考える
- ・＜各市町村から複数の参加者がいる場合＞所属組織や自治体の現状をともに認識し、考える
- ・参加者個人あるいは所属組織・組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）、（8）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

II 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）

1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくりの（15）～（18）
2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくりの（19）、（20）
3. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（継続的な評価）の（21）、（22）、（24）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：WEB研修（ZOOM）・13:00～16:30

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
13:00～13:10	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	保健所保健師A
13:10～13:50	演習（演習課題20分×2）	進行：保健所保健師A 進行補佐：保健所保健師B
13:50～14:20	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
14:20～14:30	休憩	
14:30～15:30	演習（演習課題20分×3）	進行：保健所保健師B 進行補佐：保健所保健師A
15:30～16:10	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	
16:10～16:30	研修を踏まえた企画側としての今後の研修や取組みの方向性 研修評価	保健所保健師A *可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評や災害保健活動に関する課題と今後の方向性について述べてもらう。

6) 参加者への事前課題

- ・eラーニング教材「フェーズ毎の保健活動」（21分）、「避難所における保健活動の基本①②」（①13分②15分）、「避難所における迅速アセスメント」（18分）の視聴
- ・可能であれば事前に所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルを確認する

7) 研修主催側の事前準備

- ・ 研修資料の郵送または配信
- ・ 参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ ネット環境の把握（アクセス場所、アクセス端末数（一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など））
- ・ 参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
メモ（A4用紙3枚程度）及び筆記用具
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、
環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先（ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合）
- ・ 事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ ネットにアクセス可能なPC 2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ ヘッドセット2セット
- ・ 連絡・問い合わせ用の電話
- ・ 演習グループピング
- ・ グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ ネットにアクセス可能な場所で、PC 2台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

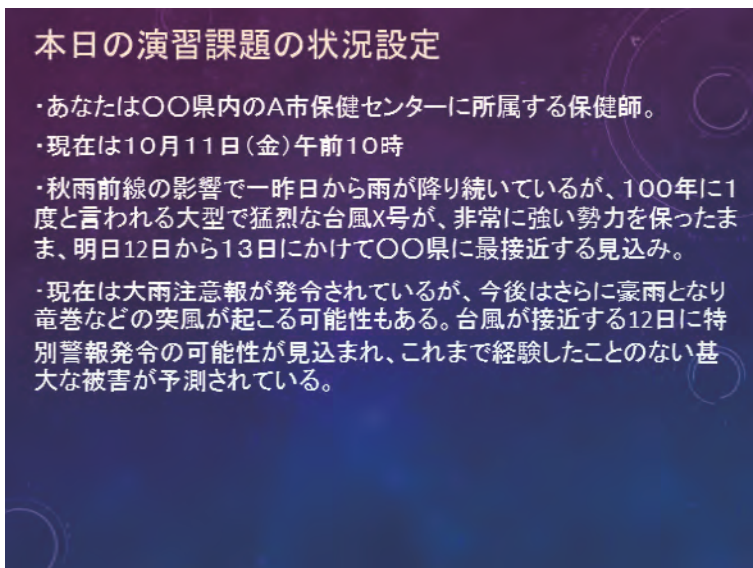
② 演習の実施

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:10～13:30	演習課題1 (オリエンテーション5分、ワーク10分、発表5分)	進行：保健所保健師 A
13:30～13:50	演習課題2 (説明5分、ワーク10分、発表5分)	進行補佐：保健所保健師 B
13:50～14:20	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」① (17分) ② (14分) 視聴	
14:20～14:30	休憩	
14:30～14:50	演習課題3 (説明5分、ワーク10分、発表5分)	
14:50～15:10	演習課題4 (説明5分、ワーク10分、発表5分)	進行：保健所保健師 B
15:10～15:30	演習課題5 (説明5分、ワーク10分、発表5分)	進行補佐：保健所保健師 A

・演習のオリエンテーション (演習課題 1 の説明含む)

(スライド 1)



本日の演習課題の状況設定

- ・あなたは〇〇県内のA市保健センターに所属する保健師。
- ・現在は10月11日(金)午前10時
- ・秋雨前線の影響で一昨日から雨が降り続けているが、100年に1度と言われる大型で猛烈な台風X号が、非常に強い勢力を保持したまま、明日12日から13日にかけて〇〇県に最接近する見込み。
- ・現在は大雨注意報が発令されているが、今後はさらに豪雨となり竜巻などの突風が起こる可能性もある。台風が接近する12日に特別警報発令の可能性が見込まれ、これまで経験したことのない甚大な被害が予測されている。

それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目標は、コロナ禍における風水害発生時の保健師活動を疑似体験し、風水害発生時の保健師活動方法を考え、自所属の災害対策への課題を見出すことです。

本日の演習課題の状況設定です。(状況設定を読み上げる)

・演習の実施

スライド 2 (演習課題 1) 説明 (オリエンテーション含む) 5分、ワーク10分、発表 5分

場面 1

●10月11日(金)16時

- ・ A市ではこの日の午前10時に危機管理対策会議を開催
- ・ その後、A市では一号配備体制をとり、保健センターはセンター長(事務職)と課長2名(保健師1名と事務職1名)、主任と採用2年目の保健師各1名が夜間に残ることになった。
- ・ その後、事務職の課長は、自宅が土砂災害警戒区域内にあり、高齢の親もいるため帰宅することになった。

課題1: この段階でA市保健師としてすべきことは何か?

(場面 1 について読み上げる)

自分がA市の保健師としてどんなことをする必要があるかについてまず考えてください。

※必要時、一号配備体制について確認・説明する。

※発表は異なる市町村の保健師 2 名程度

スライド 3 (演習課題 2) 説明 5分、ワーク10分、発表 5分

場面 2

●翌日10月12日(土)14時20分

- ・ 台風の接近速度が速まり、7時に10か所の避難所が開設され、保健師の多くは避難所に向かうよう指示され、出向いている。
- ・ 14時15分現在、大雨・洪水警報が発令、警戒レベル3「高齢者等避難」の避難情報が発令された。すでに秋雨前線の長雨で地盤が緩み、土砂崩れにより道が遮断されている地区もある。
- ・ 帰宅した係長は道路が遮断され出勤できない状況。
- ・ 14時20分に、保健センターに相談の電話が入る。ある避難所から、新型コロナウイルス感染症への対応について指導してほしいという内容である。

課題2: 避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関して保健師はどの様に対応する必要があるか?

(場面 2 について読み上げる)

避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関して保健師はどのように対応する必要があるかについて考えてください。

※発表は演習課題 1 と異なる、かつ異なる市町村の保健師 2 名程度

2つの演習課題のポイント及び次のeラーニング視聴につなげる、簡単なコメントを述べる。

演習課題 1 のねらい: 当該地域に大きな被害を及ぼす可能性のある大型台風の接近、そして大雨・洪水警報が発令される可能性がある場合に、市町村保健師として備え、対応すべきことについて考えられる。

コメント内容例

- ・リーダー保健師、リーダーを補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・所属自治体の地域防災計画における所属部署や保健師の役割を確認すること
- ・豪雨災害における避難行動要支援者の避難対応について確認すること
- ・災害時保健活動拠点の整備 等

演習課題 2 のねらい：発災時は出勤できない保健師もいることを想定して、保健活動体制を考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について、平時から、どこの部署・機関・組織等と、どのようなことを検討しておけばよいか考えられる。

コメント内容例

- ・当該都道府県の新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアル作成指針における基本的な考え方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性者や濃厚接触者が避難所に避難してくる状況として想定されること 等

e ラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）

視聴

コメント内容例（必要時）

- ・受付の設置に関する留意点、受付時の健康状態のチェック、ゾーニング、等

休憩（10分間）

スライド 4（演習課題 3）説明 5 分、ワーク10分、発表 5 分

場面3 避難所に向く指示を受けて避難所で活動中

●10月12日(土)19時50分

- ・14時に市災害対策本部が設置、17時に土砂災害警戒情報が発表、19時50分に大雨特別警報が発表された。
- ・避難所には幼児をつれた妊婦、持病の薬を持ちだせなかったという高齢者、中にはマスクをせずに避難してくる人もいる。不安そうに避難所内をうろろしている人もいる。
- ・市内を流れるN川の堤防決壊やU川の堤防からの越水が報告され、避難所の受付には、腰から下がずぶ濡れになった人、避難の途中で流されそうになったと言いながら来る人もいる。避難者は各自の携帯に届くエリアメールの着信音がなる度に、落ち着かない様子である。

課題3: 避難所の保健師が収集すべき情報は何か？

(場面 3 について読み上げる)

この時点で、避難所の保健師が収集すべき情報について考えてください。

※発表はこれまで発表していない、かつ異なる市町村の保健師 2 名程度

スライド5（演習課題4）説明5分、ワーク10分、発表5分

場面4 あなたは避難所で活動中の保健師

●10月13日(日)1時30分頃

- 避難者は自宅の被災状況が心配で、不安や興奮で眠れない様子。深夜のため消灯しているが避難者同士で話している様子も見受けられる。雨がやみ月夜になり水も引いてきたため、避難者は明け方になったら家に戻ると話している。

課題4:

- ①雨が止んだ後には住民にどのような健康課題が生じる可能性があるか？
- ②それらの健康課題に対応するために、保健師としてどのように活動するか？

(場面4について読み上げる)

①雨が止んだ後には住民にどのような健康課題が生じる可能性があるか、また②それらの健康課題に対応するために、保健師としてどのように活動するか考えてください。

※発表はこれまで発表していない、かつ異なる市町村の保健師2名程度

スライド6（演習課題5）説明5分、ワーク10分、発表5分

場面5

●10月15日(火)18時頃

- 大型台風は去り、豪雨から72時間が経過した。一時は市内のほぼ全域が冠水したが、今日避難所に来る途中の道路は概ね水が引いていた。
- 担当の避難所の避難者数は激減し、残りわずかとなっており、残っているのは、被害が大きかった地域の独居の後期高齢の女性成人の障害者が各1名、高齢夫婦2組である。
- 避難所内を巡回して独居の女性の所に行くと、保健師に対し、「随分と避難所の人数も減ったから、私もそろそろ出て行った方が良いかね？」と保健師に尋ねてきた。

課題5: 避難所に残っている避難者に対しどの様に対応したらよいか？またどのような体制で対応するか？

(場面5について読み上げる)

避難所に残っている避難者に対し、どのように対応したらよいか、また、どのような体制で対応するか、考えてください。

※発表はこれまで発表していない、かつ異なる市町村の保健師2名程度

3つの演習課題のポイント及び必要時、簡単なコメントを述べる。

演習課題3のねらい：フェーズ0～1の避難所にいる被災者のニーズ把握のために収集すべき情報を、eラーニング「避難所における迅速アセスメント」の内容も踏まえて考えられる。

コメント内容例（必要時）

- ・ eラーニング「避難所における迅速アセスメント」の関連するポイント
- ・ コロナ禍における避難所にいる被災者の日々の健康状態を把握する体制づくりの必要性 等

演習課題 4 のねらい：豪雨災害における二次的健康被害とそれらを予防・最小化するための保健活動について考えられる。

コメント内容例（必要時）

- ・ 自宅に戻って後片付けをする避難所被災者も出てくることを踏まえて、豪雨災害における二次的健康被害を予防・最小化するための被災者の健康状態の把握や保健活動の内容・タイミング・方法を考える必要性、等

演習課題 5 のねらい：被災者の生活の場が避難所や自宅等へと分散していく中、通常業務の再開・継続も含めて、避難所、自宅、それぞれの被災者への保健活動体制や、災害時要配慮者への対応について考えられる。

コメント内容例（必要時）

- ・ 災害時要配慮者への支援のために連携する機関・部署等や役割分担、等

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン（40分）

1. 気づきを促す：個人のリフレクション（8分）
2. 学びの意味づけを促す：グループ内（市町村単位）でのリフレクション（12分）
3. 意識化を促す：今後に向けたアクションプラン *チャットに各自、記載する（10分）
4. 発表（10分）*経験年数の異なる保健師（発表は若い保健師から）とし、各市町村1人ずつ

2. 研修プログラム B (一保健所管内の市町村及び保健所の保健師等を対象としたWEB研修)

—新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム—

1) 対象

一保健所管内の市町村及び保健所の地域保健関係職員

2) 目的・目標

コロナ禍における風水害発生時の保健師活動（特に初動対応）を疑似体験し、災害時における保健活動の基礎知識や専門職の役割を学ぶとともに、風水害発生時の保健師活動方法を、各市町村、保健所それぞれに考え、自組織の課題の整理や今後の取組について考える

目標 1：災害時における保健活動の基本について知識を深め、理解する

目標 2：災害時を想定した議事演習により、超急性期（フェーズ 0～1）の具体的な保健活動を理解し、発災時における専門職としての思考・判断・意志決定の過程や行動について考える

目標 3：災害時の避難所運営に係る保健活動や新型コロナウイルス感染症対策に関する対応について理解し、平時からの備え・関係者との連携調整など自組織における体制づくりを考える

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況をイメージしながら考える
- ・所属組織や自治体における災害対策をともに振り返り認識する
- ・参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ 0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）、（3）、（4）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：WEB研修（ZOOM）・（12:40～）13:30～16:30

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
12:40～13:30	事前課題のeラーニング教材「避難所における保健活動の基本」①（13分）②（15分）、「避難所における迅速アセスメント」（18分）視聴 * 事前課題を視聴していない参加者のために	保健所保健師 A
13:30～13:40	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	保健所保健師 A
13:40～14:30	演習（演習課題25分×2）	進行：保健所保健師 A 進行補佐：保健所保健師 B
14:30～15:01	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
15:01～15:10	休憩	
15:10～15:35	演習（演習課題25分×1）	進行：保健所保健師 B 進行補佐：保健所保健師 A
15:35～16:15	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	
16:15～16:30	研修を踏まえた企画側としての今後の研修や取組みの方向性 研修評価	保健所保健師 A * 可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評や災害保健活動に関する課題と今後の方向性について述べてもらう。

6) 参加者への事前課題

- ・「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」(フェーズ0～1)の実施
- ・eラーニング教材「避難所における保健活動の基本①②」(①13分②15分)、「避難所における迅速アセスメント」(18分)の視聴
- ・可能であれば事前に所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・研修資料の郵送または配信
- ・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ネット環境の把握(アクセス場所、アクセス端末数(一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など))
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
メモ(A4用紙3枚程度)及び筆記用具
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先(ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合)
- ・事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ネットにアクセス可能なPC2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話
- ・演習グループは参加市町村毎とし、保健所は参加者が8人以上の場合は1グループ4～6人で編成する
- ・グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備(設定)

- ・ネットにアクセス可能な場所で、PC2台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

① 研修全体のオリエンテーション

本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:40~14:05	演習課題1（説明5分、グループワーク10分、発表10分）	進行：保健所保健師A
14:05~14:30	演習課題2（説明5分、グループワーク10分、発表10分）	進行補佐：保健所保健師B
14:30~15:01	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
15:01~15:10	休憩	
15:10~15:05	演習課題3（説明5分、グループワーク10分、発表10分）	進行：保健所保健師B 進行補佐：保健所保健師A

・演習のオリエンテーション（演習課題1の説明含む）

（スライド1）

本日の演習課題の状況設定

- ・あなたは〇保健所、または管内市町村の保健関係職員
- ・現在は8月5日（木）午前10時
- ・△△地方気象台の予報

「6日に台風第●号は低気圧に変わり、低気圧は前線を伴って発達しながら日本海を北東に進み、7日の日中に〇〇付近を通過する見込み。6日から7日にかけて低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、大気の状態が非常に不安定になる。

・現在は大雨注意報が発令されているが、今後はさらに豪雨となり竜巻などの突風が起こる可能性もある。低気圧が最接近する7日にかけて特別警報発令の可能性が見込まれ、これまで経験したことのない甚大な被害が予測されている。

あなたには**市町村職員**、**保健所職員**として、住民の健康や安全を守る役割がある。

それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目標は、コロナ禍における風水害発生時の保健師活動、特に初動対応を疑似体験し、風水害発生時の保健師活動方法を、各市町村、保健所それぞれに考え、自組織の課題や今後の取組について考えることです。

本日の演習課題の状況設定です。（状況設定を読み上げる）

・演習の実施

スライド 2 (演習課題 1) 説明 (状況設定含む) 5分、グループワーク10分、発表10分

場面1: 8月5日(木) 16時

- 保健所管内の各市町村ではこの日午前中に危機管理対策会議を開催し、その後全市町村とも非常一号配備体制をとることになった。
- 保健所管内の新型コロナ感染者は本日16時の時点で20人、そのうち自宅療養者は10人となっている。

課題1: 各市町村の保健関係職員は、

- ①これから自所属においてどのような体制をとることになっているか？
 - ②この段階で市町村の保健関係職員として何のために、何をするか？
- ・保健所職員は、
- ①管内市町村の状況を受け、これからどのような体制をとることになっているか？
 - ②保健所として何のために、何をするか？

(場面 1 について読み上げる)

自分が所属する市町村や保健所の職員としてこの時点でどのようなことを行う必要があるかについてまず考えてください。

準備いただいている防災計画や防災マニュアル等で、どのような体制をとっているかなどについて確認しながら考えてください。

※必要時、非常一号配備体制についても確認してもらう。

※発表は市町村 2 か所の保健師等 2 名程度、保健所 1 Gの保健師等 1 名程度

スライド 3 (演習課題 2) 説明 5分、グループワーク10分、発表10分

場面2: 8月7日(土)

- 5時30分 各市町村に災害対策本部が設置される
- 6時10分 大雨・洪水警報・暴風警報(沿岸部は波浪警報)が発令、警戒レベル3「高齢者等避難」の避難情報が発令された。すでに非常に激しい雨で地盤が緩み、土砂崩れで道が遮断されている地区あり。
- 7時 全市町村に避難所が開設され、各市町村の保健関係職員の多くは避難所に向かうよう指示あり、出向いている
- 8時 大雨特別警報が発令
- 10時20分 市町村の保健関係職員の所属部署にある、避難所から相談の電話が入る。「新型コロナウイルス感染症への対応について指導をしてほしい」という内容である。

課題2:

- ①市町村職員はこの相談を受けてどのように対応するか？(相談のあった避難所、及びその他の避難所への対応も考える)
- ②保健所に市町村職員からの電話「避難所に感染者が避難してきた、手一杯で感染対策に十分手が回らない」とのこと。保健所職員としてどのように対応する必要があるか？

(場面 2 について読み上げる)

避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関して市町村保健師等はどうに対応する必要があるか、また保健所は市町村をどのように支援すればよいかについて考えてください。

※発表は演習課題 1 と異なる市町村 2 か所の保健師 2 名程度、演習課題 1 と異なる保健所 1 Gの保健師等 1 名程度

2つの演習課題のポイント及び次のeラーニング視聴につなげる、簡単なコメントを述べる。

演習課題1のねらい：当該地域に大きな被害を及ぼす可能性のある大型台風の接近、そして大雨特別警報が発令される可能性がある場合に、市町村、保健所、それぞれの保健師等が備え、対応すべきことについて考えられる

コメント内容例

- ・避難勧告等発令時の保健福祉ニーズと課題、保健活動
- ・リーダー保健師、リーダーを補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・所属自治体の地域防災計画における所属部署や保健師の役割を確認すること
- ・豪雨災害における避難行動要支援者の避難対応について確認すること
- ・災害時保健活動拠点の整備 等

演習課題2のねらい：発災時は出勤できない保健師もいることを想定して、保健活動体制を考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応及び市町村と保健所との連携・協働について考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について、平時から、どこの部署・機関・組織等と、どのようなことを検討しておけばよいか考えられる。

コメント内容例

- ・当該都道府県の新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアル作成指針における基本的な考え方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性者や濃厚接触者が避難所に避難してくる状況として想定されること
- ・避難所における新型コロナウイルス感染症対応の流れの例 等

eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）

視聴

コメント内容例（必要時）

- ・受付の設置に関する留意点、受付時の健康状態のチェック、ゾーニング、避難所における感染対策 等

休憩（9分間）

スライド 4 (演習課題 3) 説明 5 分、グループワーク 10 分、発表 10 分

場面 3: 8 月 8 日 (日)

- ・昨日、8 時 00 分に大雨特別警報が発表されたが、今朝になって雨が上がり洪水注意報に警戒レベルが下がった。
- ・避難者の中には自宅に戻ろうとしている人、一旦自宅に戻るも戻ってきた人等様々。各市町村の被災状況や避難所は以下のとおり。

市町村	A	B	C	D	E
住家被害	一部損壊 4				
浸水家屋	床上 1 床下 2	床下 2	床下 1		1
開設避難所数	20	14	4	4	2
最大避難者数	35	100	3	89	5

問題 3: 市町村職員 ①これからどのような保健活動体制で被災者を支援する必要があるか？ ②保健所職員がこれから情報収集に来るといいますが、被災市町村としてどのような事を伝える必要があるか？

保健所職員 ①市町村からどのような情報収集をする必要があるか？ ②連絡がつかない場合どのような方法で収集するか？

* スライド内の被災状況や避難所開設数は、保健所管内の全ての市町村について挙げ、状況設定については過去の被災状況を参考にしたり、地理的条件や保健所管内規模が類似の地域の被災状況を参考にしたりして設定する

(場面 3 について読み上げる)

市町村については今後の保健活動体制と保健所に伝えるべき情報を、保健所については市町村から収集すべき情報と情報収集の方法を考えてください。

※発表はこれまで発表していない(市町村 2 か所の)保健師等 2 名程度及び保健所の保健師等 1 名程度

演習課題のポイント及び必要時、簡単なコメントを述べる。

演習課題 3 のねらい: フェーズ 0 ~ 1 からフェーズ 2 へ移行する段階において、市町村においては避難所にいる被災者のニーズ把握のために収集すべき情報を、e ラーニング「避難所における迅速アセスメント」の内容も踏まえて考えられる。また、被災者の生活の場が避難所から自宅等へと分散していくことも見据えて、当該市町村の保健活動体制について受援の必要性も含めて考えられる。

保健所においては管内市町村への支援の必要性やその内容を検討するための収集すべき情報と収集方法を考えられる。

コメント内容例 (必要時)

- ・ e ラーニング「避難所における迅速アセスメント」の関連するポイント
- ・ 発災後の救護所、避難所、地域における業務と受援を想定した役割分担
- ・ 受援のための体制づくり、市町村と保健所との連携
- ・ BCP (事業継続計画) 等

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン (40 分)

1. 気づきを促す: 個人のリフレクション (8 分)
2. 学びの意味づけを促す: グループ内 (市町村単位) でのリフレクション (12 分)
3. 意識化を促す: 今後に向けたアクションプラン *チャットに各自、記載する (10 分)
4. 発表 (10 分) *経験年数の異なる保健師 (発表は若い保健師から) とし、各市町村 1 人ずつ

3. 研修プログラムC（都道府県主催の市町村及び保健所の保健師を対象としたWEB研修）

－豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

－都道府県内の市町村及び保健所の保健師

2) 目的・目標

受援を要する豪雨災害時の超急性期（フェーズ0～1）における実務保健師の役割を理解する。また、その上で平常時に準備すべきことを自覚し、行動化できる

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況をイメージしながら考える
- ・他の市町村の意見や災害対策に関する取組も参考にして、参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出す機会とする
- ・管内市町村の意見や災害対策に関する取組状況に基づき、保健師の役割や平常時における取組を考える

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）、（3）、（4）
3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

IV 静穏期（平常時の備えの時期）

2. 災害時の保健活動の地域防災計画、マニュアル、仕組みへの反映の（64）、（65）
3. 要配慮者への災害時の支援計画立案と関係者との連携の促進の（69）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：WEB研修（ZOOM）2日間・両日とも13:30～16:30

②研修スケジュール

< 1日目 >

時間	内容	役割分担
13:30～13:40	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的 オリエンテーション	都道府県研修担当保健師A
13:40～14:25	事前課題のeラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「フェーズ毎の保健活動」（21分）視聴 * 事前課題を視聴していない参加者のために	進行：都道府県研修担当保健師A 進行補佐：都道府県研修担当保健師B
14:25～14:50	演習「豪雨災害時の行動計画」 演習オリエンテーション・状況設定（25分）	
14:50～15:30	演習課題1：初動時の行動計画（40分）	
15:30～15:40	休憩	
15:40～16:10	演習課題2：大雨警報発令前の段階で行うべきこと（30分）	進行：都道府県研修担当保健師B 進行補佐：都道府県研修担当保健師A
16:10～16:30	講評研修 評価	* 可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評について述べてもらう。

< 2日目 >

時間	内容	役割分担
13:30～13:35	オリエンテーション	都道府県研修担当保健師 A
13:35～14:00	演習「豪雨災害時の保健活動」 演習課題1：避難所活動及び市町村と保健所との連携（25分）	進行：都道府県研修担当保健師 A 進行補佐：都道府県研修担当保健師 B
14:00～14:20	演習課題2：雨上がり後の被災者の健康ニーズと保健活動（20分）	
14:20～14:40	演習課題1・2の発表（グループ単位で20分）	
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:10	eラーニング教材「災害時の二次的健康被害の理解」（17分） 視聴	進行：都道府県研修担当保健師 B 進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
15:10～15:30	講義「〇〇県の災害時保健活動の実際」（20分）	都道府県研修担当保健師 B
15:30～16:10	リフレクション及びアクションプラン「平時に準備すべきこと」（40分）	進行：都道府県研修担当保健師 B 進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
16:10～16:30	2日目の研修の講評 研修を踏まえた企画側としての今後の研修や取組みの方向性 研修評価	保健所保健師 A * 可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評や災害保健活動に関する課題と今後の方向性について述べてもらう。

6) 参加者への事前課題

- ・「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」（フェーズ0～1）の実施
- ・eラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「フェーズ毎の保健活動」（21分）の視聴
- ・所属自治体の防災計画・防災マニュアルを読み、保健活動体制と自分の役割の確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・研修資料の事前配信
- ・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ネット環境の把握（アクセス場所、アクセス端末数（一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など））
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先（ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合）
- ・事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう
- ・グループ編成
保健所管内毎のグループ、あるいは規模や組織体制が類似した自治体から成るグループ等とする

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ネットにアクセス可能なPC 2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話
- ・演習課題のグループワークシートは、グループ内で共有できるように、グループ毎のスプレッドシート等を作成しておく（以下の例の表の、保健師名・経験年数・災害対応経験の有無がないもの等）。スプレッドシートにアクセスできない市町村がある場合には、事前に同じシートの電子ファイルを送っておく。
- ・研修主催者側がグループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ネットにアクセス可能な場所で、PC 2台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

① 研修全体のオリエンテーション

本研修の位置付け（ラダーとの関連等）、目的、2日間の研修スケジュール及び演習方法の概要を話す

② 演習の実施

< 1日目 >

- ・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:40~14:25	事前課題のeラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「フェーズ毎の保健活動」（21分）視聴 * 事前課題を視聴していない参加者のために	進行：都道府県研修担当保健師 A 進行補佐：都道府県研修担当保健師 B
14:25~14:50	演習「豪雨災害時の行動計画」 演習オリエンテーション・状況設定（25分）	
14:50~15:30	演習課題1：初動時の行動計画 （説明・市町村別ワーク25分、ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループワーク15分）	
15:30~15:40	休憩	
15:40~16:10	演習課題2：大雨警報発令前の段階で行うべきこと（説明・市町村別ワーク20分、ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループワーク10分）	進行：都道府県研修担当保健師 B 進行補佐：都道府県研修担当保健師 A

・演習のオリエンテーション（演習課題 1 の説明含む）

（スライド 1）（説明 5 分）

災害想定

◆令和●年8月3日（水）に、5日（金）から6日（土）にかけて、台風から変わる低気圧の影響で警戒レベル5級の大雨になる見通しなどの気象情報の発表があった。

◆令和●年8月5日（金）午後2時に「大雨警報」、「洪水警報」が発令され、各市町村では災害警戒本部を設置した。

同日、午後8時に「土砂災害警戒情報」が発表され、各市町村は災害警戒本部を災害対策本部に切り替えた。

午後9時には各市町村の全域または一部の地域に「高齢者等避難開始」及び「避難指示」が発令された。非常配備体制がとられ、原則、全職員が所定の場所へ参集することとなった。

◆令和●年8月6日（土）午前0時に「大雨特別警報」が発令された。



それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日及び次回の演習の目的は、受援を要するような豪雨災害が発生した状況を想定したケースメソッドによる演習により、フェーズ0～フェーズ1における市町村保健師の役割を理解し、平時に準備すべきことを考え、意識化することです。

本日の演習における災害想定です。市町村保健師は所属の市町村の状況と、保健所保健師は所属の保健所の管内市町村の状況と考えてください。（災害想定を読み上げる）

状況設定（市町村別ワーク）20分

まず、状況設定を考えてみましょう！

◆各保健師はどこに参集することになっているか。

◆保健活動拠点はどこか。

そこには自家発電設備があるか。

◆保健活動拠点に出勤している保健師は3分の2。

→誰が出勤したことにするか。



用意している所属自治体の防災計画・防災マニュアル、また保健活動マニュアル（作成している場合）も確認しながら考えてください。

※参加者個々が所属の状況を踏まえて、演習における状況設定ができるようにする

※所属市町村や保健所から一人で参加している保健師がいる場合には、この時点から他の参加者にはブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。

・演習の実施

スライド 2 (演習課題 1) 説明・市町村別ワーク25分、複数市町村でのグループワーク15分

8月5日 (金) 午後9時

- ◆ 県内では一部の川が氾濫し、避難し始めている住民がいるとの情報が入る
- ◆ 家屋への被害情報も入る
- ◆ 災害対策本部より、人命救助を最優先するよう指示あり

↓

保健活動拠点○○に参集した保健師△人で、これから翌日(6日)正午までに何をしますか？

保健師	翌日(6日)正午までに行うこと	翌日の正午過ぎまでかかりそうなことは○
保健師○○		
保健師○○		
保健師○○		
.....		

*「保健師」の部分は初動体制として想定される(又は想定されている)班やグループでもよい

(状況・課題について読み上げる)

この状況において、保健活動拠点に残る保健師(統括保健師や統括保健師を補佐する保健師等)は翌日の正午までに何をするか? 避難所は何カ所あるか、保健師はどこかの避難所へ行くか、常駐型と巡回型、どちらで対応するか、実施予定の事業はどうするか、等について、できるだけ具体的に考えてみてください。

ワークシートの「保健師」の部分は、初動体制として想定される(又は想定されている)班やグループで考えていただいても結構です。

※ブレイクアウトルームに入らず残っている一人参加者は、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。

※市町村別ワークの終了5分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

※複数市町村でのグループワークの各グループのファシリテーターは都道府県研修担当保健師、保健所保健師、市町村の管理期にある保健師等が考えられる

※複数市町村でのグループワークはグループ内の全市町村及び保健所に課題について考えたことを発表してもらおう。スプレッドシートで各グループの課題への取組結果を共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークは考えたことの共有や情報・意見交換をねらいとする。

休憩 (10分間) ※ブレイクアウトルームを一旦、解除する

スライド 3 (演習課題 2) 説明・市町村別ワーク20分、複数市町村でのグループワーク10分

**大雨特別警報発令前の段階で、
行うべきことを考えてみましょう！**

いつ	誰が	何をする

*「いつ」は警戒レベルを念頭に考えてみる
*「誰が」の部分は初動体制として想定される(又は想定されている)
班やグループでもよい



(スライドを読み上げる)

- ※警戒レベルについては、必要時、ワークを始める前に説明し、共通理解を図る。
- ※一人参加者以外は、最初からブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。
- ※複数市町村でのグループワークは演習課題 1 で解説したとおり。
- ※市町村別ワークの終了 5 分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

講評 (10~15分)

2つの演習課題のポイント等、簡単なコメントを述べる。

演習課題 1 のねらい：高齢者等避難開始及び避難指示の発令(警戒レベル 3~4)の段階における、参集した保健師数、その者たちの職位、防災計画等における取り決め事項、そして災害対策本部の指示を踏まえて、市町村、保健所、それぞれの保健師の活動について具体的に考えられる。

- ・初動時の体制・役割と、参集した保健師間における役割分担を考えられる
- ・保健師自身の安全も考慮しながら、保健活動拠点とそれ以外の活動を考えられる(避難行動要支援者や被災者の避難等に関わる活動、災害対策本部との連携、避難所にいる被災者への対応、情報収集、実施予定の事業に関する対応、など) など

演習課題 2 のねらい：演習課題 1 も踏まえて、警戒レベル 5 級の大雨の見通しの気象情報が発表された段階から、大雨特別警報が発令される可能性に備えて保健師として行うべきことを考えられる。防災情報や「避難」情報に沿った活動を考えることができる(警戒レベルの各レベルにおける活動等)。

コメント内容例

- ・フェーズ 0~1 及び豪雨災害の場合の避難勧告等発令時の保健福祉ニーズと課題、保健活動
- ・「雨」や「川」の防災情報と警戒レベルと「避難」情報の関連
- ・各警戒レベルにおける保健活動、『備える』意識を持ち、気象情報等に基づいた活動の意識化の重要性
- ・リーダー保健師、リーダーを補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・所属自治体における初動の指揮命令系統、避難所・救護所の開設の流れと所属部署や保健師の役割を地域防災計画等から確認すること
- ・災害時保健活動拠点の整備 等

< 2日目 >

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:30~13:35	オリエンテーション	
13:35~14:00	演習「豪雨災害時の保健活動」 演習課題1：避難所活動及び市町村と保健所との連携（説明・市町村別ワーク25分）	進行：都道府県研修担当保健師A 進行補佐：都道府県研修担当保健師B
14:00~14:20	演習課題2：雨上がり後の被災者の健康ニーズと保健活動（説明・市町村別ワーク20分）	
14:20~14:40	演習課題1・2の発表（ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループ単位20分）	

・演習の実施

スライド1（演習課題1）説明・市町村別ワーク25分

8月6日（土）午後1時

- ◆ 正午に雨が上がり、「洪水注意報」に警戒レベルが下がった。
- ◆ 避難所の避難者の中には自宅に戻ろうとしている人や、一旦自宅に戻るも戻ってきた人等様々。
- ◆ 人的被害：所属保健所管内 死者1名 重症者2名 所属市町村 重症者1名
住家被害：所属保健所管内 全壊10棟 半壊2,200棟 一部損壊4,000棟
床下浸水 10棟 床上浸水 300棟
所属市町村 全壊5棟 半壊1,000棟 一部損壊 1,800棟
床上浸水 0棟 床下浸水 130棟

課題1

市町村：保健所職員がこれから情報収集に来るといふ。被災市町村として、どのようなこと（情報）を伝える必要があるか？

保健所：管内市町村について、どのような情報収集をする必要があるか？

誰	収集する情報	目的
○○		
○○		
○○		
……		

*「誰が」の部分は災害時体制として想定される（又は想定されている）班やグループでもよい

それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目的も、前回同様、受援を要するような豪雨災害が発生した状況を想定したケースメソッドによる演習により、フェーズ0～フェーズ1における市町村保健師の役割を理解し、平時に準備すべきことを考え、意識化することです。

災害想定は前回と同様です。市町村保健師は所属の市町村の状況と、保健所保健師は所属の保健所の管内市町村の状況と考えてください。今回は高齢者等避難開始及び避難指示が発令された8月5日の午後9時における演習課題に取り組みました。本日の1つ目の演習課題は8月6日の午後1時の時点について考えます。（スライドを読み上げる）

誰が、どのような情報を、何のために収集するか、について考えてください。「誰が」の部分は、災害時の体制として想定される班やグループとして考えていただいても結構です。

※所属市町村や保健所から一人で参加している保健師がいる場合には、この時点から他の参加者にはブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。

※市町村別ワークの終了5分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

スライド 2 (演習課題 2) 説明・市町村別ワーク20分

8月7日 (日) 午前9時

- ◆ 朝から晴天。
- ◆ 道路の水は概ね引いている。
- ◆ 避難所では「家のことが心配で、昨夜は眠れなかった」等の声が聞かれる。家に帰る支度をしている避難者も多数みられる。

課題2

↓

今後、住民にはどのような健康に関連する課題が生じる可能性があるか？
また、それに関連して、どのような保健活動が必要であるか？

健康課題	活動	誰が
		○○
		○○
		○○
		……

*「誰が」の部分は災害時体制として想定される (又は想定されている) 班やグループでもよい



(状況・課題について読み上げる)

- 考えられる健康課題と、それらに対する活動、その活動を誰が行うのか、ということについて考えてください。
- ※ブレイクアウトルームに入らず残っている一人参加者は、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。
 - ※市町村別ワークの終了 5 分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

演習課題 1・2 の発表：複数市町村でのグループワーク20分

- ※ブレイクアウトルームにより行う。
- ※グループ内の全市町村及び保健所に課題について考えたことを発表してもらう。スプレッドシートで各グループの課題への取組結果を共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークは考えたことの共有や情報・意見交換をねらいとする。例えば『情報収集の目的』、『健康課題への対応』等と、共有や情報・意見交換の内容を焦点化すると、より効率的・効果的な発表となる。

休憩 (10分間) ※ブレイクアウトルームを一旦、解除する

e ラーニング教材「災害時の二次的健康被害の理解」(17分) 視聴

2 つの演習課題及び e ラーニングの視聴を踏まえて、必要時、簡単なコメントを述べる。

演習課題 1 のねらい：フェーズ 0 における保健師の役割を理解し、その役割遂行のために必要な収集すべき情報とその収集目的を具体的に考えられる。

コメント内容例

- ・フェーズ 0 ～ 1 の医療保健福祉ニーズと課題、保健活動
 - ・発災時の情報収集やアセスメントの特徴及び被災市町村、管轄保健所それぞれが収集すべき情報
 - ・避難所における保健活動
 - ・市町村と保健所との連携とその目的
 - ・受援の必要性の判断
- 等

演習課題 2 のねらい：フェーズ 1、そしてフェーズ 2 も見据えて、住民に生じる可能性のある健康に関連する課題と、それに関連する保健活動を考えることができる。

コメント内容例

- ・被災者の居場所と生じる可能性のある健康に関連する課題
- ・健康に関連する課題を明らかにするための方法
- ・豪雨災害に関わる二次的健康被害と保健活動 等

講義「〇〇県の災害時保健活動の実際」(20分)

※講義内容として、当該県の災害対策に関わる取組、応援・派遣の流れや実績、本庁と保健所と市町村の連携、災害時の難病患者への支援と個別避難計画等が考えられる。過去の発災時の対応や応援・派遣保健師の経験等を例に挙げて説明するとよりわかりやすい。

リフレクション及びアクションプラン「平常時に準備すべきこと」(40分)

2日間の演習を振り返って、
平常時に準備すべきことを考えてみましょう！

↓

アクションプランを立てましょう！

1. 気づきを促す：個人ワーク（5分）
※ 2日間の研修を踏まえて、個人のリフレクション
※ 一人参加者以外は、最初からブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には個人ワーク及び市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。
2. 学びの意味づけを促す/意識化を促す：市町村別ワーク（15分）
※ 個人のリフレクションを踏まえて、今後、平常時に準備すべきことを考え、組織としてのアクションプランを立てる
※ 市町村別ワークの終了 5 分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す
3. 意識化を促す：ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループワーク（20分）
※ ブレイクアウトルームにより行う。
※ グループ内の全市町村及び保健所にアクションプランを発表してもらい、スプレッドシートで各グループのアクションプランを共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークはアクションプランの共有や情報・意見交換により、アクションプランに関する気づきやより詳細に考えられることをねらいとする。

4. 研修プログラムD（保健所主催による管内市町村の保健師を対象とした集合研修またはWEB研修）

－大規模地震事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

－保健所管内の市町村の保健師

2) 目的・目標

大規模地震発生後のフェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における保健師活動を疑似体験し、大規模地震発生時の保健師活動方法を考え、自身や所属部署・組織の災害対策の課題を見出す

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況について、所属自治体における平時の保健活動体制や所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル等と照らして、市町村グループ毎に自ら状況を設定し、イメージしながら考える
- ・所属組織や自治体の現状をともに認識し、考える
- ・参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）～（4）
2. 救急医療の体制づくりの（5）、（6）
3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）、（8）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）～（12）
5. 外部支援者の受入に向けた準備の（13）、（14）

II 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）

4. 外部支援者との協働による活動の推進の（26）～（28）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：集合研修またはWEB（ZOOM）研修・3時間半

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
5分	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	保健所保健師A
35分	演習オリエンテーション	進行：保健所保健師A
60分	演習（演習課題30分×2）	進行補佐：保健所保健師B
10分	休憩	
30分	演習（演習課題30分×1）	進行：保健所保健師B
40分	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	進行補佐：保健所保健師A
30分	・研修の講評 ・災害保健活動に関する今後の方向性 ・研修の評価	保健所保健師A +管理的立場の保健師又は災害対応経験のある保健師又は災害保健活動に関する有識者

6) 参加者への事前課題

- ・eラーニング教材「フェーズ毎の保健活動」（21分）、「避難所における迅速アセスメント」（18分）、「受援についての体制づくり」（20分）の視聴
- ・所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
メモ（A4用紙3枚程度）及び筆記用具
- ・グループ編成
基本的には市町村単位のグループとする。一つの市町村からの参加者が少ない場合には、規模や組織体制が類似した市町村の参加者で構成されたグループとする

加えて<WEB研修の場合>

- ・研修資料の配信
- ・ネット環境の把握（アクセス場所、アクセス端末数（一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など））
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先（ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合）
- ・事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・研修主催者側がグループ発表内容等を記載するための用紙（以下の例の表を参照のこと）

加えて<WEB研修の場合>

- ・ネットにアクセス可能なPC2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話
- ・演習課題のグループワークシートは、グループ内で共有できるように、グループ毎のスプレッドシート等を作成しておく（以下の例の表の、保健師名・経験年数・災害対応経験の有無がないもの等）。スプレッドシートにアクセスできない市町村がある場合には、事前に同じシートの電子ファイルを送っておく。

例)

自治体 課題	A 保健師a・〇年・有 保健師b・〇年・有 保健師c・〇年・有	B 保健師d・〇年・有	C 保健師e・〇年・有 保健師f・〇年・有	D 保健師g・〇年・有 保健師h・〇年・有 保健師i・〇年・有 保健師j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ <WEB研修の場合>
- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする。

加えて<WEB研修の場合>

- ・ ネットにアクセス可能な場所で、P C 2 台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・ 参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

① 研修全体のオリエンテーション

本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

- ・ 演習スケジュール

時間	内容	役割分担
40分	演習オリエンテーション（説明10分、状況設定ワーク20分、発表10分）	進行：保健所保健師 A
30分	演習課題1（説明5分、ワーク15分、発表・コメント10分）	進行補佐：保健所保健師 B
30分	演習課題2（説明5分、ワーク15分、発表・コメント10分）	
10分	休憩	
30分	演習課題3（説明5分、ワーク15分、発表・コメント10分）	進行：保健所保健師 B 進行補佐：保健所保健師 A

- ・ 演習のオリエンテーション

（スライド 1）説明 5 分

災害想定

- ◆ 令和●年9月16日（木）午前3時00分、〇〇県東部を震源（震源の深さ14km）とするM8.0の地震が発生し、〇〇県内では震度6弱～震度7の非常に強い揺れを観測した。
- ◆ A市は震度6強であった。
- ◆ 一般電話は通話不能、防災行政無線・衛星携帯電話は使用可能。
- ◆ インターネットは使用可能、メールは送れて届く。
- ◆ 管轄保健所は〇〇県Y保健所。Y保健所管内ではA市のほかB町でも震度6弱を観測した。



それでは、これから演習を始めます。

<WEB研修の場合>

マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目的は、大規模地震が発生した状況を想定したメースメソッドによる演習により、フェーズ0～フェーズ2における市町村保健師の災害時保健活動遂行能力を高めること、またそのための自己及び組織の課題を見出して平時の活動につなげることです。

本日の演習課題の状況設定です。あなたはA市の保健師です。A市とはご所属の市町村と考えてください。(状況設定を読み上げる)

説明5分、状況設定ワーク20分、発表10分
(スライド2)

9月16日(木) 午前10時の状況

<A市>

- ◆ 出勤している保健師 2/3
- ◆ ライン：上下水道断水率80%、固定電話不通回線率70%、携帯電話被害率80%、停電率80%
- ◆ 建物被害(全壊や半壊)や負傷者が多数出ているとの情報あり
- ◆ A市の災害対策本部より、人命救助を最優先するよう指示あり



(スライドを読み上げる)

(スライド3)

まず、発災後の状況設定を考えてみましょう！

<A市>

- ◆ 震度6級の地震が発生した場合、保健師はどこに参集することになっているか
- ◆ 出勤している保健師 2/3 → 誰が出動したことにするか
- ◆ 災害時、保健活動拠点はどこか？そこには自家発電設備があるか



用意している所属自治体の防災計画・防災マニュアル、また保健活動マニュアル(作成している場合)も確認しながら考えてください。

※参加者が所属市町村の状況を踏まえて、演習における状況設定ができるようにする

<WEB研修の場合>

※所属市町村から一人で参加している保健師がいる場合には、専用のブレイクアウトルームをつくり、保健師等がサポートしながら、状況設定ワークを進められるようにする。

※発表においては、参加者個々が自所属の状況を踏まえて、どのように状況設定したかを確認する

・演習の実施

(スライド 4) 演習課題 1 説明 5 分、ワーク15分、発表・コメント10分

9月16日 (木) 午前10時

<A市>

- ◆ **コイノライン**：上下水道断水率80%、固定電話不通
回線率70%、携帯電話被害率80%、停電率80%
- ◆ 建物被害（全壊や半壊）や負傷者が多数出ているとの情報あり
- ◆ A市の災害対策本部より、人命救助を最優先するよう指示あり

↓

保健活動拠点〇〇に参集した保健師△△人で、これから午後5時までに何をしますか？

保健師	午後5時までにすること	午後5時過ぎまでかかりそうなことには○
保健師〇〇		
保健師〇〇		
保健師〇〇		
.....		

(スライドを読み上げる)

ワークシートの「保健師」の部分は、初動体制として想定される（又は想定されている）班やグループで考えていただいても結構です。*以下の演習課題 2、3も同様

<WEB研修の場合> *以下の演習課題 2、3も同様
 ※一人参加者については、専用のブレイクアウトルームに入ってもらい、保健所保健師等がサポートしながら、ワークを進められるようにする。
 ※ワークの終了5分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

・発表は異なる市町村の保健師 2～3名程度

<WEB研修の場合> *以下の演習課題 2、3も同様
 ※発表の際にはスプレッドシートで各グループの課題への取組結果を共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークは考えたことの共有や情報・意見交換をねらいとする。

・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

演習課題 1 のねらい：参集した保健師数、その者たちの職位、防災計画等における取り決め事項、そして災害対策本部の指示を踏まえて、初動期における保健師の活動を具体的に考えられる

コメント内容例

- ・統括保健師または管理的立場の保健師、その者を補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・保健活動拠点に残る保健師：誰が残り、何をするか（実施予定の事業に関する対応、情報収集、災害対策本部や保健所との連携など）
- ・避難所にいる被災者への対応：巡回型、常駐型、いずれの方法で対応するか。この時点での避難所対応の目的や救護所への対応 等

(スライド 5) 演習課題 2 説明 5 分、ワーク15分、発表・コメント10分

9月16日（木）午後1時

< A市 >

- ◆保健師の出勤状況に変化なし。
- ◆県庁からY保健所、Y保健所からA市に応援派遣保健師の要請の有無の連絡あり。午後5時までには回答が欲しいと依頼あり。



応援派遣保健師の判断・意思決定をするために、①誰が、②どのような情報を、③どのような手段を用いて集めますか？

①誰	②収集する情報	③手段
〇〇		
〇〇		
〇〇		



- ・スライドを読み上げる
- ・発表は演習課題 I とは異なる市町村の保健師 2 ～ 3 名程度
- ・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

演習課題 2 のねらい：演習課題 1 で考えた保健師の配置や役割分担を踏まえて、応援派遣要請の必要性を判断するための情報収集項目と情報収集のための手段を具体的に考えることができる。特に避難所にいる被災者のニーズを把握するための情報収集項目と情報収集のための手段を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・避難所における迅速アセスメントのポイント
- ・応援派遣要請の必要性を判断する上での留意点 等

休憩（10分間）

演習課題 3 説明 5 分、ワーク15分、発表・コメント10分

9月18日（土）-発災3日目-

◆ A市への応援派遣保健師決定の連絡あり。栃木県から1班3名保健師派遣決定。9月20日（月）から派遣可能。公用車なし。宿泊場所確保済み。4泊5日で継続して派遣、最終日と初日が重なり引継ぎ可。

◆ 富山県から1班5名保健師派遣決定。公用車あり。宿泊場所を探しているが決定次第、派遣可能。3泊4日で継続して派遣、最終日と初日が重なり引継ぎ可。

◆ 日本看護協会の災害支援ナース1班2名派遣決定。9月19日（日）から派遣可能。1班2日（毎週土日のみ）継続。

◆ 栃木県と富山県からの保健師はY保健所経由。

応援派遣保健師の受け入れのための調整について、考えてください。
具体的には、配膳場所、オリエンテーションなど、そして誰（どこ）と、どのような調整をするかについてです。

誰と	何をするか	必要な調整は



- ・スライドを読み上げる
- ・発表は演習課題1、2とは異なる市町村の保健師2～3名程度
- ・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

演習課題3のねらい： 受援のために必要な体制整備や調整を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・応援派遣者へのオリエンテーション及び受援のための体制整備
- ・応援派遣者に依頼する業務及び応援派遣者との協働体制 等

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン（40分）

1. 気づきを促す：個人のリフレクション（8分）
2. 学びの意味づけを促す：グループ内（市町村単位）でのリフレクション（12分）
3. 意識化を促す：今後に向けたアクションプラン
 <WEB研修の場合>チャットに各自、記載する（10分）
4. 発表（10分）*経験年数の異なる保健師（発表は若い保健師から）とし、各市町村1人ずつ

5. 研修プログラムE（市町村保健師を対象とした集合研修）

－大規模地震発生時を想定した既存の演習教材（避難所HUG）を活用したプログラム－

* 避難所HUGの活用については、静岡県の承諾を得ています

1) 対象

市町村の保健師

※主催者は都道府県研修担当保健師、保健所保健師、市町村保健師、いずれも考えられます。

2) 目的・目標

大規模地震発生後のフェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における避難所活動を疑似体験し、大規模地震発生時の避難所活動における初動の運営について考え、自身や所属部署・組織の災害対策の課題を見出す

3) 本演習の特徴

- ・ 想定される状況について、所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル等を踏まえ、イメージしながら考える
- ・ 所属組織や自治体の現状を振り返りながら、考える
- ・ 参加者個人あるいは所属部署・組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

II 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）

1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくりの（15）、（16）、（18）

2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくりの（19）、（20）

5) 研修プログラム

① 研修形態・研修時間：集合研修・3時間半

② 研修スケジュール

時間	内容	役割分担
5分	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	研修主催側保健師A
95分	演習オリエンテーション（15分） 避難所運営シミュレーション演習 ・ HUG（50分） ・ グループワーク①避難所避難者のアセスメント、避難者の生活環境のアセスメント（20分） ・ グループワーク②避難所に関わる保健活動において重要なこと（10分）	進行：研修主催側保健師B 進行補佐：研修主催側保健師A
10分	休憩	
40分	eラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、 「災害時の二次的健康被害の理解」（17分）視聴	進行：研修主催側保健師A 進行補佐：研修主催側保健師B
30分	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	
30分	・ 研修の講評・災害保健活動に関する今後の方向性・研修の評価	研修主催側保健師A + 管理的立場の保健師又は災害対応経験のある保健師又は災害保健活動に関する有識者

6) 参加者への事前課題

- ・ eラーニング教材「避難所における保健活動の基本①②」(計28分)、「避難所における迅速アセスメント」(18分)の視聴
- ・ 所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・ 参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ 参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル、筆記用具
- ・ 研修会場の確保 (感染対策に配慮しながら避難所HUGがグループ数分けるスペース)
- ・ 演習グループの編成
 - ✓ 1グループは6～7人とする
 - ✓ 演習グループは、発災時は様々な人々と協働する可能性があり、このような疑似体験を重視するならば、様々な市町村の保健師から成るグループ編成が考えられる。所属する市町村の状況や市町村内保健師の協働についての疑似体験を重視するならば、同じ市町村または規模や組織体制が類似した市町村の保健師から成るグループ編成が考えられる。リフレクション及び今後に向けたアクションプランについては後者が適していると考えられる。

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ PC、スクリーン、プロジェクター、マイク2本 (ワイヤレスマイク、小さいマイク)
- ・ 感染対策のための物品 (消毒用アルコール、ウェットシート、フェイスシールド)
- ・ 避難所HUGを行うための物品※ (カード、体育館・学校敷地図・校舎の図面、マジック、A4用紙20枚程度、役割を記載した名札、ホワイトボード、マグネット又はセロハンテープ、クロノロを同時に行う場合は、模造紙または記載用シートを用意) ※グループ数分用意
- ・ グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有
GW①				
GW②				
..				

- ・ リフレクション及びアクションプラン立案の内容を記載するための用紙

9) 当日の準備 (設定)

- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 会場設営

10) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け (ラダーとの関連等) 及び目的を話す

② 演習の実施

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
15分	演習オリエンテーション	進行：研修主催側保健師B 進行補佐：研修主催側保健師A
50分	避難所運営シミュレーション演習 (HUG)	
30分	グループワーク①20分 (説明2分、ワーク10分、発表・コメント8分) グループ②10分 (説明1分、ワーク5分、発表・コメント4分)	

・演習のオリエンテーション

説明15分

演習目的

避難所運営ゲームHUGを通して、
自然災害発生時の避難所の運営を
疑似体験し、避難所活動における
初動の運営について考える。

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

それでは、これから演習を始めます。

本日の演習の目的は、大規模地震発生後のフェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における避難所活動について、避難所運営ゲームHUGにより疑似体験し、大規模地震発生時の避難所活動における初動の運営について考え、自身や所属部署・組織の災害対策の課題を見出していただくことです。

本日のゲームの条件

地震発生状況

- ・今日は10月2日(水)
- ・現在時刻は午前10時
- ・午前3時に〇県東部を震源とする
最大震度7、マグニチュード8.0
の大地震が発生
- ・震源の深さ 14キロ
- ・A市は震度6強

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

本日の演習の条件です。地震発生状況は～（スライドを読み上げる）

本日のゲームの条件

避難所の職員体制

- ・ ○県○保健所管内のA市のB地区担当保健師はA市災害対策本部から所属課長を通じて地区担当保健師として避難所に出向き、避難者への対応に当たるよう指示された
- ・ 避難者を、避難所である自治小学校の体育館や教室に振り分け、避難所を適切に運営していかなければならない

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

あなたはA市の保健師です。A市とは自分が所属する市町村と考えてください。
(条件を読み上げる)

本日のゲームの条件

避難所の職員体制

- ・避難所運営には以下のものが関わる
 - A市保健師(B地区担当)
 - A市事務職員
 - 学校教職員
 - 自治会長

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

避難所の職員体制はこのようになっています。(スライドを読み上げる)

※HUG付属のパワーポイント教材にある、その他の「本日のゲームの条件」(ライフライン、避難所の小学校の被害、住民組織、天候、避難者の状況、備蓄してあるもの、体育館・教室の開放順序等)を読み上げる

※HUG付属のパワーポイント教材にある「ゲームのしかた」を用いて、ゲームの方法を説明する

・演習の実施

HUG50分

作戦会議と練習

- 役割分担をしてください
(A市保健師、A市事務職員、学校教職員、自治会長)
- 避難者カードの1番から15番を体育館に配置しながら、地区割りや通路、受付等の場所をどうするか、作戦会議をしてください。

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

それでは役割分担をして作戦会議と練習に入ります。まず、役割分担をしてください（5分）。

役割分担ができたようなので、役割の名札を付けてください。

※参加者個々が分担した役割を踏まえて、演習に取り組めるようにする。

それではHUGを始めます。(HUGカードを時間まで次々と読み上げていく)

(15分経過後)

それでは、いったん手を止めてください。通路がしっかりマジックで書けているか確認してください。

カードの配置は進んでいますでしょうか。ここで一度、スタッフミーティング（作戦会議）の時間を5分間だけとります。カードの配置は中断し、ゲームの後半をどのように進めるとよいか話し合ってください。

役割分担をしましたが、それぞれの役割を踏まえた活動ができているかについても確認してください。

(5分経過後) HUG再開

(終了予定時間5分前)

カードの配置はストップしてください。それでは、残りのカードにはどのような情報がかかっているか、グループ内で回し読みしてください。

(終了時間)

はい、それではHUGを修了します。皆さんお疲れ様でした。

グループワーク① 説明 2分、ワーク10分、発表・コメント 8分

避難所における 避難者と生活環境のアセスメント

- ・A市の災害対策本部から、避難者と避難所の生活環境の状況について、報告するように求められています。
- ・あなたはどのような情報からアセスメントし、報告をしますか。



- ・スライドを読み上げる
- ・発表は市町村の保健師 2～3名程度
- ・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

グループワーク①のねらい：HUGカードに記載されている避難者や避難所の生活環境に関する様々な情報からのアセスメントをとおし、避難者の健康や生活に関する顕在的・潜在的ニーズを明らかにすることができる。また、災害対策本部への報告の目的（医療や介護の必要な避難者及び避難者や避難所の生活環境の状況から必要な支援や物資を確保できること等）とそのための情報を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・避難所における保健活動の目的と役割
- ・医療・ケアの必要な人々の把握と対応
- ・避難所における迅速アセスメントのポイント（避難所日報²⁾などを活用した避難者の健康観察等）
- ・避難者の二次的健康被害を防ぐためのアセスメントとそれに基づく必要な支援や資源の判断 等

グループワーク② 説明 1分、ワーク 5分、発表・コメント 4分

避難所における保健師活動において 重要なこと



- ・グループワーク②のポイントについて、簡単なコメントを述べる

グループワーク②のねらい：保健師の役割と活動体制・活動方法を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・避難所における避難者の健康管理の体制と方法
- ・避難所における要配慮者への対応（要配慮者数や、医療や福祉避難所につなぐ必要のある者を明確にし、必要な支援に繋ぐこと、等）
- ・避難所での二次的健康被害の発生予防（二次的健康被害の発生予防のための具体的な保健活動（教育啓発活動を含む））
- ・生活環境の整備（トイレの清潔確保、消毒、清掃、換気等）
- ・災害対策本部との連携、保健師間の役割分担
- ・住民の持つ力や強みを避難所運営に活かすことと、そのための平時の取組 等

休憩（10分間）

eラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「災害時の二次的健康被害の理解」（17分）視聴

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン（30分）

目的（3分）

1. 気づきを促す：個人のリフレクション（5分）
2. 学びの意味づけを促す：グループ内でのリフレクション（15分）
3. 意識化を促す：今後に向けたアクションプラン
4. 発表（7分）*経験年数の異なる保健師（発表は若い保健師から）とし、2～3人

6. 研修プログラムF（市町村における全保健師を対象とした集合研修）

－新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

一市町村の全保健師（キャリアラダー A-1～B-2 段階）

※主催者は当該市町村の保健師

2) 目的・目標

実際に当該市で起こりうる風水害を想定した事例を用いて、現場に出向く保健師に焦点をあてた保健活動を考える

- ①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくる
- ②当該市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成の参考とする
- ③災害対策における他部署他部局との連携調整に役立つ

3) 本演習の特徴

- ・当該市内で過去に水害被害があった状況を参考に演習事例を想定する
- ・I 超急性期（フェーズ0～1）に焦点をあてる

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）、（3）、（4）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）～（12）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：集合研修・8:45～12:05

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
8:45～8:50	開会 挨拶・オリエンテーション	市保健師A及び市統括保健師
8:50～9:10	ミニレクチャー「市町村の災害時保健活動の重要性と基本的事項」（15分） *内容は災害時の保健医療ニーズ、市町村保健師の役割などeラーニング教材から抜粋 演習の目的・進め方説明（5分）	市統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師 市保健師A
9:10～9:30	演習「豪雨災害時の市保健師の活動」 状況設定の説明 課題1：被害が予測される段階の準備 (個人で考える→グループワーク、コメント)	進行：市保健師A 進行補佐：市保健師B
9:30～9:50	課題2：避難所活動の準備 (個人で考える→グループワーク、コメント)	
9:50～9:55	休憩	
9:55～10:15	eラーニング教材「避難所における迅速アセスメント」（18分）視聴	
10:15～10:35	課題3：避難所迅速アセスメント (個人で考える→グループワーク、コメント)	進行：市保健師B 進行補佐：市保健師A
10:35～10:55	課題4 避難所における医療・ケアが必要な人への対応 (個人で考える→グループワーク、コメント)	
10:55～11:10	eラーニング教材視聴「避難所における保健活動の基本②」（15分）視聴	
11:10～11:50	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン (個人で考える→グループワーク→共有)	進行：市保健師B 進行補佐：市保健師A
11:50～12:00	講評 まとめ、今後の災害時保健活動体制、 取組みの方向性	進行：市保健師B 講評：市統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師
12:00～12:05	「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」記入説明	市保健師B

6) 参加者への事前課題

- ・ eラーニング教材資料「避難所における新型コロナウイルスへの対応」、「避難所における迅速アセスメント」、「避難所における保健活動の基本①②」の一読
- ・ 市防災計画・防災マニュアルから保健活動の体制と自分の役割の確認
- ・ 「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」の記入

7) 研修主催側の事前準備

- ・ 研修資料の郵送または配信
- ・ 参加者の経験年数、配属部署、災害対応経験の有無の把握
- ・ 参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
事前送付資料、筆記用具

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ PC、スクリーン、プロジェクター、マイク
- ・ グループワークの際の感染対策準備（飛沫防止、換気、机の配置など）
- ・ 当日配付資料
 - ✓ 研修説明資料及びワークシート
 - ✓ 参加者名簿（グループ番号入り）
- ・ グループに準備するもの
 - ✓ 「災害時の保健活動推進マニュアル」²⁾
 - ✓ 市地域防災計画
 - ✓ 市福祉避難所設置・運営マニュアル
 - ✓ グループワーク記入用模造紙またはA4コピー用紙及び筆記用具
(感染状況によって、模造紙かA4コピー用紙、どちらを使用するか判断)
- ・ 研修主催側用のグループ発表内容等を記載するための用紙

例)

グループ	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 会場設営

10) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

・演習のねらいと対応するコンピテンシー、進め方のオリエンテーション（5分）

「演習のねらいは、①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくること、②市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成に役立てることです。」

「この研修で習得をねらう災害対応のコンピテンシーは～です。」

「状況設定と討議して頂く課題を順番に示していきます。」

それぞれの課題について、はじめに個人で考え、その後グループ内で共有します。

提示された状況の設定された保健師の立場ならば、自分はどうか判断し行動するかを考えてみてください。

グループワークでは、進行係・記録係を決めてください。

進行係は、グループメンバー全員から発言が得られるよう配慮してすすめてください。

後から振り返ることができるよう、また発言を共有しながら討議を進められるよう、記録係は発言を記録してください。

課題に取り組みやすいように、途中でeラーニングコンテンツを視聴します。

自分自身の災害対応への準備状況や市や所属部署の災害対応がどのようになっているのかを振り返ることが最も重要なねらいです。

率直に感じたことや考えたことを共有しましょう。」

・災害想定の説明（1分）

災害想定

- ・あなたは、A市保健師5年目Aまたは15年目B。自宅は市中心部にあります。
- ・7月4日（金）から梅雨前線が九州北部地方に停滞。梅雨前線の南側では、南から暖かく湿った空気が流れ込み、長時間にわたり大気の状態が不安定となりA市X地区では、局地的に非常に激しい雨が降っています。
- ・これまで経験したことのないほどの甚大な被害が予測される状況です。

本日の演習における災害想定です。

みなさんにはA市X支所福祉課所属の5年目保健師Aまたは、A市健康づくり推進課所属の15年目保健師Bのいずれかの立場を選んでいただき、その立場でこの演習の課題を考えてください。

（災害想定を読み上げる）

課題1「被害が予測される段階の準備」 説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

場面1 発災前 7月5日（土）1時50分

大雨洪水警報発令、第2警戒体制が配備された。
今後も猛烈な雨が引続く予定で、Z川氾濫も予測される。

自主避難所は各地に開設された。

今後、大雨が続く予報で、指揮をとる保健師から、自宅待機を指示された。

待機となったあなたは発災に備えて何をしますか？

(読み上げる) それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分で進めます。手元のワークシートをメモ用に使用してください。

※この際、持参を求めた自治体の防災計画・防災マニュアル等も確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題1のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題1のねらい：風水害発災前の準備予測の段階で、個人としての備えとして何を準備するか考えることができる。市の警戒体制のレベルが上がった場合、保健師として行うべきことを予測する。防災情報や「避難」情報に沿った活動を考えることができる。

ポイント

- ・風水害に対する一住民として及び自分の家族の備えを振り返る。
- ・担当区域や居住区域の水害ハザードを確認する。
- ・「雨」や「川」の防災情報と警戒レベルと「避難」情報の理解

課題2「避難所活動の準備」 説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

【場面2】発災前からフェーズ0
7月6日（日）15時

- ・Z川氾濫の恐れが高まり、災害対策本部が配備された。Y地区の一部（578世帯1336人）に「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された。国道は渋滞し、県道は通行止めになっている箇所がある。
- ・15時30分、指揮を担当する保健師2名が、健康づくり推進課内に出務。
- ・災害対策本部より、指揮をとる保健師へ、避難所には避難者があふれており、発熱している人、咳をする人がいると連絡が入った。Y地区を流れるZ川の堤防決壊からの越水が報告され、ひざ下が濡れ、避難中の転倒により、けがをして出血している人もいるとのこと。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所収容可能人数についての問い合わせもあった。

【場面2】発災前からフェーズ0
7月6日（日）16時

- ・指揮をとる保健師は、自宅待機していた保健師に、X地区に開設された指定避難所に向かうよう指示した。
- ・X地区では、X複合施設、X高等学校、Y小学校3か所の避難所が開設されている。
- ・A保健師とB保健師は、X高等学校避難所に派遣されることとなった。

新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた避難所運営のため、どのような準備をして避難所に向かいますか？

対応コンピテンシー I-1 (1) (3) (4)

(読み上げる) それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分ですすめます。手元のワークシートをメモ用で使用してください。

※自治体の防災計画・防災マニュアル、災害時保健活動推進マニュアルや避難所迅速評価等の配布資料を確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題2のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題2のねらい：避難所支援における保健師の役割を考えることができる。避難所における新型コロナウイルス感染症対策を確認する。

ポイント

- ・避難所における初動体制確立時の保健師の役割
- ・自治体の地域防災計画における避難所設置運営事項の確認
- ・避難所巡回時の準備物品

休憩（5分間）

eラーニング教材「避難所における迅速アセスメント」（18分）視聴

課題3 避難所迅速アセスメント 説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

【場面3】フェーズ1
7月6日（日）18時

- A保健師とB保健師は、X高等学校避難所に到着した。
- 避難所には避難者があふれており、あと20人で避難所収容可能人数になってしまう状況。
- 乳幼児を連れた妊婦、持病の薬を持ってこなかったという高齢者がいる。精神疾患をもつ独居高齢者が不穏でウロウロしている。自治会長が避難してきた。
- 避難者から、Y地区独居の人が避難所にいないと安否を心配する声が入った。また、自宅の隣は、脳梗塞後の半身不随の高齢者、数件先には、認知症が心配な独居高齢者がいるとの情報。人工透析患者も避難している。

**この時点で収集すべき情報は何か
そのうえでどのような体制を整えますか**

対応コンピテンシ I-1 (1) (3)

（読み上げる）それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分ですすめます。手元のワークシートをメモ用に使用してください。

※避難所迅速評価等の配布資料を確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題3のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題3のねらい：避難所支援における保健師の役割を踏まえ、避難所迅速アセスメントを模擬的に実施する。

コメント内容例

- 被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療・ケアが必要な人、配慮の必要な人の特定と対応
- 二次的健康被害発生予防のための観察ポイント
- 避難所支援の資源・協力者の把握

課題4 避難所における医療・ケアが必要な人への対応

説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

【場面4】フェーズ1 7月7日（月）朝6時

- ・雨は断続的に降り続けている。
- ・近くのグループホームから、浸水の危険性が高まったため入居者がスタッフとともに避難してくるという情報が入った。入居者には、車いす利用者や認知症高齢者が含まれる。

グループホームからの避難者を受け入れる準備をどのように進めますか

1-1 (3) (4)
1-4 (10) (11) (12)

(読み上げる) それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分です。手元のワークシートをメモ用に使用してください。

※自治体の防災計画・防災マニュアル、災害時保健活動推進マニュアル、福祉避難所設置・運営マニュアル等資料を確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題4のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題4のねらい：避難所における医療やケアが必要な要配慮者への避難所支援における保健師の役割を考える。

コメント内容例

- ・避難所における保健福祉的トリアージ
- ・医療やケアが必要な要配慮者への対応における関係機関や関係者との連携

eラーニング教材「避難所における保健活動の基本」②（15分）視聴

リフレクション・アクションプラン「平時に準備すべきこと」

個人ワーク 8分、グループ内共有15分、全体共有17分

振り返り（個人ワーク）8分

演習に取り組んでみて気づいたことを書き出しましょう。

平時からしておくべきことを書き出してみましょ

う。具体的なアクションプランをあげましょ

う。
*アクションプランには、1~2か月以内に実行可能なものを必ず1つは含めてください。

- ・スライドを読み上げる
- ・気づきを促す：個人のリフレクション→シートへの記載
- ・学びの意味づけを促す/意識化を促す：グループ内共有
- ・気づきを促す/意識化を促す→全体共有

講評

まとめ 今後の市の災害時保健活動体制と取り組みの方向性

7. 研修プログラムG (都道府県主催の市町村及び当該都道府県の保健師を対象とした集合研修)

—新型コロナウイルス感染症禍における豪雨水害事例の演習教材を活用したプログラム—

1) 対象

—都道府県の市町村及び当該都道府県の中堅期保健師

2) 目的・目標

災害時保健活動に関する基礎知識、中堅期保健師の役割、発災直後にとるべき行動について理解し、平時から準備をすべき内容について具体的に述べるができる

- ①災害時保健活動に関する基礎知識（基本的な考え方、関係法令、災害サイクルに応じたニーズの変化）について理解できる
- ②災害時（特に発災直後）に中堅期保健師に求められる役割を理解できる
- ③災害時に備えて平常時に強化する取り組みについて明らかにできる

3) 本演習の特徴

・レクチャー（L）＋ワークショップ（W）＋リフレクション（R）の構成とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（3）、（4）
3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）、（11）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：集合研修・13:00～16:00

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
13:00～13:05	オリエンテーション、主催者挨拶	都道府県研修担当保健師 A
13:05～13:30	講義「災害時において中堅期保健師に求められる役割」 演習事例（大型台風・地元保健師）及び進め方説明	統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師 都道府県研修担当保健師 A
13:30～13:40	演習Q1（発災前日：避難所開設時の感染症対策のための必要物品、資機材）	進行：都道府県研修担当保健師 A
13:40～13:50	演習Q1発表・解説	
13:50～14:05	演習Q2（発災前日：避難所開設準備；コロナ対策避難所設営ゾーニング）	進行補佐：都道府県研修担当保健師 B
14:05～14:20	演習Q2発表・解説	
14:20～14:30	演習Q3（発災3日目：想定される健康課題とその対策）	
14:30～14:40	演習Q3発表・解説	進行：都道府県研修担当保健師 B
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:00	演習Q4（発災3日目：外部支援との協働のための受援準備）	進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
15:00～15:10	演習Q4発表・解説	
15:10～15:30	リフレクション	総括：統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師 評価シートの記入説明：都道府県研修担当保健師 B
15:30～15:50	リフレクション発表 演習の振り返り、総括	
15:50～16:00	評価シートの記入・総括	

6) 研修主催側が準備するモノ

- ・ P C、スクリーン、プロジェクター、マイク
- ・ 当日配付資料
 - ✓ 研修資料及び個人ワークシート
 - ✓ 参加者名簿

7) 当日の準備（設定）

- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 会場設営

8) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す
- ② 演習の実施

・ 演習の進め方の説明（2分）

演習

“大型台風の直撃”

被災地（〇〇県A市：人口48,000人、保健師8名）の
保健師として
あなたなら、どうする？

本演習は、スクール形式（着座）による個人検討を中心に演習を実施します。

本日の演習では、新型コロナウイルス感染症禍に発生した台風水害時の被災地自治体（市）の保健師の立場で、保健師の役割について考えていただきます。

設問は4問です。各々、指定された時間内で、人口48,000人、保健師8名のA市の保健師の立場になり思考し、回答を手元のワークシートに記載し、発表してください。

・状況設定の説明（2分）

状況設定：発災当日

大型で強い勢力の台風5号が、明日（10月13日（水））午前中、〇〇県に上陸する予報です。

あなたの勤務するA市は台風の進路にあたることが想定されており、危機管理室を中心に、風雨の強まる前に避難所開設準備を行う方針となりました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に予断を許さない時期であり、感染予防対策の徹底のため、危機管理室職員の避難所開設準備にあなた（保健師）が同行することになりました。

あなたが向かった避難所は市内の小学校です。

本日の演習における状況設定です。

（状況設定を読み上げる）

Q1「発災前日：避難所開設時の感染症対策のための必要物品、資機材」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q1.

避難所の開設にあたり、感染予防対策のために、必要な衛生用品や機材として何を準備する必要がありますか。

必要物品とその用途を示してください。

（読み上げる）それでは、今から10分間、個人で考え、ワークシートに記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は5分程度

※発表後、避難所開設時の感染症対策のための必要物品、資機材について解説する

Q2 「発災前日：避難所開設準備（コロナ対策避難所設営ゾーニング）」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q2.

市の危機管理室の方針により、学校の体育館は、一般避難者専用とする方針です。しかし、三密回避のため、一般避難者は体育館のスペースだけでは不足することが想定されるため、校舎(教室)の一部も活用する必要があります。

発熱者の居室は最低2つ以上の教室を確保した上で、以下に示す専用居室の確保、受付の配置、動線を図面上に記載してください。

- ・受付設置場所
- ・動線 →
- ・教室などの区分
- ・その他; 随時設定

教室区分

- ・一般避難者の居室(一般)
- ・発熱者の居室(熱); 最低2か所
- ・自宅療養者の居室(療)
- ・濃厚接触者の居室(濃)
- ・その他; 随時設定



(読み上げる) それでは、今から10分間、個人で考え、図面上に記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は5分程度

※発表後、避難所における新型コロナウイルス感染症対策としての受付の配置、ゾーニング、動線等について解説する

※必要時、eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応①(17分)、②(14分)」の視聴による復習を促す

Q 3 「発災 3 日目：想定される健康課題とその対策」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q.3.

留意する必要がある健康課題と、そのための対策は何ですか。

*ここでは、新型コロナウイルス感染症以外の健康課題について検討してください。

(読み上げる) それでは、今から10分間、個人で考え、ワークシートに記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は 5 分程度

※発表後、台風水害時に想定される健康課題とその対策について解説する

※必要時、eラーニング教材「災害時の二次的健康被害の理解（17分）」の視聴による復習を促す

休憩（10分間）

Q 4 「発災 3 日目：外部支援との協働のための受援準備」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q.4.

- ・ 台風による被害が甚大かつ広域であったため、市内の避難所の開設数は、80か所と報告されています。
- ・ 今後、自宅の流出や倒壊被害の大きな住民の避難生活は1か月以上にわたる可能性が高いことが想定されています。
- ・ 明日から約1か月程度の予定で、他都市自治体保健師6名、災害支援ナース4名が支援に来る予定です。
- ・ 応援支援者に、どのような活動を依頼しますか。そのためにどのような準備が必要ですか。

(読み上げる) それでは、今から10分間、個人で考え、ワークシートに記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は 5 分程度

※発表後、外部支援との協働のための受援準備について解説する

※必要時、eラーニング教材「災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み（24分）」、「受援についての体制づくり（20分）」の視聴による復習を促す

リフレクション 説明・リフレクション20分、発表・演習の振り返り・総括20分

リフレクション		
段階	ポイント	内容
STEP1	気づき	中堅期保健師として、演習中の自身の判断、思考の振り返りを行う > 被災地保健師の立場になってみたことにより、災害時の任務、行動についてどのような気づきがありましたか？ > それに対して、自分自身の知識・行動・態度について、感じたこと、思ったことはどのようなことですか？
STEP2	結果の意味づけ	STEP1の問題点と課題を見出す > そのように感じたのは何故ですか？今、振り返られて、ご自身について、何が問題で、今後どのようなことが課題である(どのような知識・行動・態度を充実させる必要がある)と考えますか？
STEP3	今後に向けた意識化	改善の方向性と具体的な改善策 > 考えた問題や課題について、今後、どのような行動に取り組みますか？(具体的に取り組むこと)

(スライドを用いて、リフレクションについて説明する) それでは、個人個人でリフレクションを行い、ワークシートに記載してください(説明と併せて20分)。その後、発表してもらいます。

※リフレクションにより個人の目標の明確化を図る

※災害対応経験、所属自治体の災害リスク、研修をとおし、強化が必要な部分を認識できるようにする

※発表は10分程度

総括
評価シートの記入

<参考文献>

- 宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、石川麻衣、金吉晴、植村直子、金谷泰宏(2020):実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン 令和2年3月、平成30年度~令和元年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証(研究代表者 宮崎美砂子).
https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2019/193061/201927006A_upload/201927006A202008021913435270011.pdf
- 日本公衆衛生協会/全国保健師長会(2020):令和元年度地域保健総合推進事業「災害時の保健活動推進マニュアル」.
http://www.nacphn.jp/02/saigai/pdf/manual_2019.pdf
- 宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、金谷泰宏、吉富望、井口沙織(2018):統括保健師のための災害に対する管理実践マニュアル・研修ガイドライン 平成30年3月、平成28年~29年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究(研究代表者 宮崎美砂子).
<https://www.mhlw.go.jp/content/000806948.pdf>

「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」

出典：厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証（H30-31）」（研究代表者 宮崎美砂子）による「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（令和2年3月）」P41-49

*以下の点を改変しています

- ・自己評価基準を「1：おおむねできる 2：できるとはいえない」から、Ⅰ～Ⅲについては「1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある」に、Ⅳについては「1：できていない 2：あまりできていない 3：おおむねできている 4：できている」に改変
- ・所属（都道府県・市町村・その他）のチェック欄、保健師経験年数の記入欄、災害対応経験または被災地支援経験の有無のチェック欄を追記

実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート

所属 都道府県・市町村・その他（該当に○） 保健師経験年数（ ）年

災害対応経験または被災地支援経験 有 ・ 無

【I 超急性期（フェーズ0～1）発災直後～72時間】

1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)		
I-1. 被災者への応急対応				
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先(保健福祉事業実施中の対応も含む)				
コンピテンシー	(1)被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療やケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行う。また緊急ではない要医療者の手当て、要配慮者への継続的な見守りを行う。			
	(2)保健福祉事業実施中の場合は、事業参加者の安全を確保し住民の不安が最小限となるよう統括保健師と連携の下、住民に情報提供を行う。			
知識・技術・態度	1)心身のアセスメント			
	2)保健福祉的視点からのトリアージ			
	3)応急手当の実施			
	4)要配慮者の判断基準			
	5)災害時の倫理的な判断と行動			
	6)保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解			
	7)自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施			
活動場所：避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー	(3)避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。			
知識・技術・態度	1)災害時の二次的健康被害の理解			
	2)避難先での被災者の健康状態の把握			
	3)避難環境のアセスメント			
	4)感染症予防対策の実施			
	5)急性期の被災者の心理的反応とところのケアに関する理解			
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー	(4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。			
知識・技術・態度	1)応援の必要性の判断			
	2)指示命令系統の理解			
	3)統括保健師と実務保健師の役割分担の理解			
	4)応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解			

I-2. 救急医療の体制づくり				
活動場所： 保健活動拠点				
コンピ テン シー	(5)診療可能な病院、医療の確保を必要とする被災者に関する情報収集を行う。			
	(6)医療を必要とする被災者への医療提供体制づくりについて統括保健師を補佐し協働する。			
知識 態度 技術	1)地域医療の稼働や緊急受入に関する情報収集			
	2)医療依存度の高い被災者に関する情報収集			
	3)統括保健師を補佐する役割の理解			
	4)地域防災計画における医療救護体制の理解			
I-3. 要配慮者の安否確認と避難への支援				
活動場所： 保健活動拠点及び地域包括支援センター等				
コンピ テン シー	(7)平時から把握している要配慮者のうち早急に安否確認の必要な対象者を判断する。			
	(8)安否確認の体制づくりを行う。			
	(9)安否確認のめれ、不明者の確認に対する持続的な管理を行う。			
知識 態度 技術	1)安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断			
	2)要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント			
	3)連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり			
I-4. 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）				
活動場所： 救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピ テン シー	(10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。			
	(11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。			
	(12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。			
知識 技術 態度	1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり			
	2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用			
	3)被災地域の迅速評価			
	4)数量データによる、健康課題の根拠の提示			
	5)優先度の高い課題と対象のリストアップ			
	6)受援の必要性と内容に関する判断			
I-5. 外部支援者の受入に向けた準備				
活動場所： 保健活動拠点				
コンピ テン シー	(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。			
	(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。			
知識 態度 技術	1)外部支援者の種別・職務の理解			
	2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解			
	3)外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解			
	4)保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解			

【Ⅱ 急性期及び亜急性期（フェーズ 2～3） 中長期】

1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)		
Ⅱ-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピテンシー	(15)被災者・避難者の心身の健康状態をアセスメントし、セルフケアのために必要な情報や仕組みを判断する。			
	(16)二次的健康障害を未然に予防するための対策を講じる。			
	(17)関連死のリスク兆候を早期に把握し必要な個別対応と予防対策を講じる。			
	(18)住民による主体的な健康管理及び避難所運営管理者等と連携した健康管理の体制づくりを行う。			
知識 技術 態度	1)個人・家族による健康管理のセルフケアの体制づくり			
	2)成長発達段階、ジェンダーに考慮した支援			
	3)亜急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識			
	4)グリーンケアに関する知識			
	5)廃用性症候群の理解と防止策の実施			
	6)関連死のリスク兆候の理解と対応			
	7)避難所の運営管理者との連携			
	8)長期化する避難生活において想定されるヘルスニーズと連携すべき専門職や専門チームに関する理解			
Ⅱ-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピ テン シー	(19)環境衛生の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。			
	(20)安心・安全の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。			
知識 技術 態度	1)避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント			
	2)発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識			
	3)感染症予防・食中毒予防に関する技術			
	4)災害時における啓発普及の技術			
Ⅱ-3. 被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価）				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピテンシー	(21)避難所単位、地区単位に、地域住民のヘルスニーズを持続的に把握すると共に、避難所の統廃合等の状況変化に応じて生じるヘルスニーズの変化を明らかにする。			
	(22)未対応、潜在化しているニーズを明らかにする。			
	(23)被災自治体庁内の関連部署及び外部の関連機関・施設の活動の動向について情報を把握する。			
	(24)重点的に対応すべきヘルスニーズを検討し対応策を提案する。			
	(25)災害対策本部に求める対応の根拠を作成する。			
知識 技術 態度	1)モニタリングによる持続的な情報の蓄積と分析			
	2)ヘルスニーズの変化、未対応のニーズ及び潜在化しているニーズの検討			
	3)活動の動向を情報収集すべき庁内の関連部署及び関連機関・施設の理解			
	4)重点的に対応すべきヘルスニーズと活用する資源の検討			

II-4. 外部支援者との協働による活動の推進			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テンシー	(26)災害対策本部の情報、健康支援活動の方針を支援者間で共有し、各役割を明確にしながら連携協働できる体制をつくる。		
	(27)外部支援者から受けた相談事項へ対応すると共に、外部支援者の報告から得たヘルスニーズを地域のヘルスニーズの検討に活かす。		
	(28)人員の適正配置に関してアセスメントを行い必要な調整を提案すると共に、避難所の統廃合等の状況の変化に応じて外部支援者の共同体制の再構築を図る。		
知識・技術・態度	チームビルディングの方法の理解		
	協働活動を効果的に進めるための会議運営技術		
	短期交代する外部支援者の活動の質の担保及び情報の見える化		
	外部支援者が捉えたヘルスニーズへの対応と情報の活用		
	外部支援者の適正配置のアセスメントと変化するニーズを踏まえた共同方法の調整		
	保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用		
II-5. 要配慮者への継続的な支援体制づくり			
活動場所：避難所等被災者の避難先			
コンピ テンシー	(29)要配慮者のニーズを持続的に把握し、地域包括支援センター等の関係部署や関係機関と連携・協働して支援を行う。		
	(30)介護・福祉サービスの中断状況の把握と再開への調整支援を行う。		
	(31)避難所の生活環境を要配慮者の視点からアセスメントし調整の必要な事項について避難所運営管理者に助言する。また必要に応じて地域住民の理解促進を助ける。		
	(32)福祉避難所の環境衛生、個別対応について、生活相談職員等の支援者への助言を行う。		
知識・技術・態度	1)二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント		
	2)避難所生活の長期化による心身への影響と新たな要配慮者の出現あるいは状況悪化への対応と関係者との連携		
	3)介護・福祉サービスの中断者への対応		
II-6. 自宅滞在者等への支援			
活動場所：避難所外の被災者の避難先			
コンピ テンシー	(33)自宅滞在者等の二次的健康被害防止のため健康管理に必要な情報提供を行う。また支援の必要性のある個人・家族の把握のため健康調査を企画・実施する。		
	(34)新たに支援が必要な要配慮者を把握し、情報や支援の提供につなげる。		
知識・技術・態度	1)地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応		
	2)車中泊・テント泊等の二次的健康被害の予防と対策の理解		
	3)潜在的な支援ニーズ把握のための健康調査の企画と実施の体制づくり		
II-7. 保健福祉の通常業務の持続・再開及び新規事業の創出			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テンシー	(35)保健事業の継続や再開について、根拠、優先順位、必要とする人員・物資・場等を判断し、実施に向けて調整する。必要時、応援要請する。		
	(36)保健事業の再開を通して、被災者のヘルスニーズを把握する方策を持つと共に、要配慮者を把握し適切な支援につなげる。		
	(37)庁内の他部署・他の関係機関の事業の継続・再開等の動きを把握する。		
	(38)既存事業の工夫に加え、新規事業の創出の必要性について検討し提言する。		
知識・技術・態度	1)保健福祉事業の中断、継続、再開の意義や必要性についての判断と根拠の提示		
	2)ニーズに基づいた新規事業の企画と必要な人的・物的・財政的資源の提示、期待される成果、及びそれらの根拠の提示		

II-8. 自身・同僚の健康管理			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テン シー	(39)自身・同僚のストレス・健康状態の把握と休息の必要性について判断する。		
	(40)ミーティング等の対話の場を通して、同僚相互の状況理解、それぞれの思いを尊重し、各人の役割遂行への敬意を示す。		
	(41)活動の振り返りと意味づけを行う時間をつくる。		
知 識 ・ 態 度 ・ 技 術	1)自身及び職場のストレスマネジメント		
	2)被災自治体の職員のストレス反応とこころのケアの理解		
	3)同僚相互の健康観察及び思いや役割遂行の理解と活動を意味づける場の重要性の理解		

【Ⅲ 慢性期（フェーズ4）復旧・復興期】

1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)	
Ⅲ-1. 外部支援撤退時期の判断と撤退後の活動に向けた体制づくり			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テン シー	(42)被災地における復旧・復興期の活動計画を具体化するために必要な業務量を推定する。		
	(43)地元のマンパワーの確保状況、医療・保健・介護・福祉サービスの再開状況、復旧・復興期の活動方針に照らして、外部支援者の撤退の時期について判断する。		
	(44)受援の終息を見越して活動の引継ぎに関する計画を策定する。		
知 識 ・ 態 度 ・ 技 術	1)復旧・復興期における活動計画及び人的・物的・財政的な資源確保の方策立案		
	2)地元のマンパワーの確保と活用及び地元の支援人材の育成に対する計画立案		
	3)外部支援者の撤退時期の判断と引継ぎ計画の立案		
Ⅲ-2. 被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価）			
活動場所：応急仮設住宅等の被災者の居住先地域			
コンピ テン シー	(45)仮設住宅単位、地区単位に、地域住民のヘルスニーズを持続的に把握する方法を構築すると共に、仮設住宅等移動後に生じるヘルスニーズの変化を明らかにする。		
	(46)未対応のニーズ、潜在化しているニーズを明らかにする。		
	(47)被災自治体庁内の関連部署及び外部の関連機関・施設の活動の動向について情報を把握する。		
	(48)きめ細かく対応すべきヘルスニーズを検討し、活動の在り方を判断する。		
	(49)定期的な健康生活調査等に基づき、被災者の健康課題の明確化を図り、対策につなげる。		
知 識 ・ 態 度 ・ 技 術	1)復旧・復興期に生じ易い被災者の健康問題及び生活上の問題の理解		
	2)被災者の居住先が分散化する状況下での持続的なヘルスニーズ把握のための方法の構築		
	3)ヘルスニーズの変化、未対応のニーズ及び潜在化しているニーズの検討		
	4)活動の動向を情報収集すべき庁内の関連部署及び関連機関・施設の理解		
	5)重点的に対応すべきヘルスニーズと活用する資源の検討		

Ⅲ-3. 被災地域住民への長期的な健康管理の体制づくり			
活動場所：応急仮設住宅等の被災者の居住先地域			
コンピ テンシー	(50)要配慮者の応急仮設住宅等への移動後の生活状況とヘルスニーズを把握する。		
	(51)継続支援が必要な住民の選定基準を明確にし、関係者と連携した支援体制を構築する。		
	(52)健診等の結果や健康実態調査等の情報を活用して被災者の健康状態を持続的に把握すると共に必要に応じて個人・家族に支援を行う。		
知識・ 態度・ 技術	1)復旧・復興期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識・技術		
	2)継続支援が必要な住民の選定基準		
	3)住民の長期的な健康管理に活用できる情報源及び地域資源の理解		
	4)住民の長期的な健康管理に対する市町村と保健所との重層的な役割分担		
	5)関係者との連携による持続的な支援体制づくり		
Ⅲ-4. 生活再建・コミュニティへの支援			
活動場所：応急仮設住宅等の被災者の居住先地域			
コンピ テンシー	(53)応急仮設住宅入居者、自宅滞在者などが生活再建に向けて自助力・共助力を高めることを支援する。		
	(54)地域の文化、地域住民の気質・価値観などの尊重と配慮について支援者間で共有を図る。		
	(55)被災地・被災者のみならず住民全体の支援ニーズを踏まえた活動を行う。		
	(56)生活不活発病や閉じこもり予防のための活動を企画・実施する。		
	(57)生活圏域を単位に住民や関係者と連携・協働した地域活動の企画実施を行う。		
知識・ 態度・ 技術	1)支援団体・ボランティアによる支援と被災者の自助力の見極め		
	2)地域の強みや弱み、地域資源に関する地域診断		
	3)住民の自助力・共助力を活かした地域活動の技術		
	4)民間の支援団体を含む分野を超えた多様な立場の関係者との連携		

【IV 静穏期（平常時の備えの時期）】

1:できていない 2:あまりできていない 3:おおむねできている 4:できている

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)		
IV-1. 地域住民や関係者との協働による防災・減災の取り組み				
活動場所：地域活動				
コンピテンシー	(58)災害を想定した場合の地域の健康問題及び支援対応の脆弱性や強みに関するアセスメントを行う。			
	(59)アセスメント結果に基づき、住民や関係者との協働による防災・減災に対する取組計画を策定する。			
	(60)平時の保健福祉事業の場に、災害対応について住民と共に考える機会を織り込む。			
	(61)平常時のかかわりを通じて、災害時の健康支援への協力者となりうる地域住民や地元の関係者と保健師との信頼関係を構築する。			
知識・技術・態度	1)災害を想定した場合の地域の脆弱性や強みに関する地域診断			
	2)保健福祉事業の場の活用による、災害対応について住民と共に考える機会の企画・実施・評価			
	3)住民や地元の関係者との信頼関係の構築及び有事における連携協働のイメージの構築			
活動場所：地域活動				
コンピテンシー	(62)要配慮者の災害時の避難行動や避難所での生活を想定した場合の地域の脆弱性や強みをアセスメントする。			
	(63)災害時における共助について住民や関係者と共に考える場を企画する。			
知識・技術・態度	1)災害時対応を想定した場合の要配慮者に対する地域の脆弱性や強みに関する地域診断			
	2)災害時の共助について住民及び関係者と共に考える場の企画・実施・評価			
IV-2. 災害時の保健活動の地域防災計画、マニュアル、仕組みへの反映				
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー	(64)地域防災計画から、災害時の保健師の位置づけを確認する。			
	(65)地域防災計画と災害時保健活動マニュアル等の実施計画との関連及び整合性を図る。			
知識・技術・態度	1)所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解			
	2)職能を活かした災害時の活動体制の実質化を図るための庁内での合意形成への参画			
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー	(66)被害想定に基づき、受援の内容や方法について、全ての災害サイクルに対して、その意義や必要性を確認する。			
	(67)応援・受援に関する計画を立案し組織で共有する。			
	(68)地域防災計画、所属部署の災害時活動マニュアルに受援体制を位置づける。			
知識・技術・態度	1)応援・受援計画の立案への参画			
	2)地域防災計画及び災害時活動マニュアルへの受援計画の明文化と庁内での共有への参画			

IV-3. 要配慮者への災害時の支援計画立案と関係者との連携の促進				
活動場所：保健活動拠点				
コンピ テン シー	(69)要配慮者の情報の管理体制・活用方法について関係者間で共有を図る。			
	(70)要配慮者の個別支援計画を当事者及び関係者と共に立案する。			
	(71)要配慮者の個別支援計画等の実効性を高めるための方策を企画・実施・評価し、自治体の施策として取り組むべきことを明確にする。			
知識・ 態度 技術	1)要配慮者の個別の災害時支援計画の立案			
	2)要配慮者の個別支援計画等の実効性を高めるための訓練等の方策の企画・実施・評価			
活動場所：保健活動拠点				
コンピ テン シー	(72)要配慮者への災害時支援マニュアル等を作成し関係者間で共有する。			
	(73)要配慮者避難支援連絡会議等の平時からの設置と連絡会の役割、業務等の検討を行う。			
	(74)災害時要配慮者名簿の活用方法について関係関連部署での合意を図る。			
	(75)要配慮者への医療介護等に関与している関係者と各種の協議会等を通じて、平時から組織的な連携強化を図る。			
知識・ 態度 技術	1) 災害サイクルを通じて要配慮者に必要とされる促しと関係者間の支援についての共通認識の形成の場への参画			
IV-4. 災害支援活動を通じた保健師の専門性の明確化				
活動場所：保健活動拠点				
コンピ テン シー	(76)災害時の活動経過を検証するために記録や資料を整理する。			
	(77)災害時の対応経験を振り返り意味づけを行うことを通じて学びと教訓を得る。			
	(78)災害時の活動経験を人材育成に活かす。			
知識・ 態度 技術	1)災害対応経験の振り返りと意味づけを行う場や機会の創出			
	2)災害時の対応経験を人材育成につなげるための研修の企画・実施			
IV-5. 自身及び家族の災害への備え				
活動場所：自宅、保健活動拠点				
コンピ テン シー	(79)災害時の自身の安全確保や健康維持のために必要な物資を備蓄する。			
	(80)災害発生時の家族間の安否確認方法、居住地の避難所及び避難経路等を確認しておく。			
	(81)勤務中に災害が発生した時の対応についてあらかじめ家族間で話し合っておく。			
知識・ 態度 技術	1)災害発生時に自身や家族に起こりうる状況の理解			
	2)個人の安全・健康維持に必要な物品の理解			
	3)家族間の安否確認・連絡方法に対する理解			

<p>令和2-3年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業） 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のための 教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る教育教材活用のためのマニュアル</p>		
研究代表者	春山 早苗	自治医科大学看護学部・教授 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159 TEL/FAX 0285-58-7509
研究分担者	安齋由貴子 牛尾 裕子 奥田 博子 島田 裕子 江角 伸吾	宮城大学看護学群・教授 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻・教授 国立保健医療科学院・上席主任研究官 自治医科大学看護学部・准教授 自治医科大学看護学部・講師
研究協力者	石谷 絵里 尾島 俊之 宮崎美砂子 浅田 義和	北海道立江差刺高等看護学院・学院長 浜松医科大学健康社会医学講座・教授 千葉大学大学院看護学研究院看護学研究科 生活創世看護学研究部門地域創成看護学講座・教授 自治医科大学医学部・准教授